

「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーター」を育成するために！

平成 26 年度

在学生・教職員

KTC総合アンケート調査結果

[報告書 抜粋]

金沢工業高等専門学校

平成 26 年度 K T C 総合アンケート調査結果について

学校のプログラムの成果と効果を継続的に観察し、その機能している強い部分を把握した上でそれらを強化し、同時にあまり機能していない弱い箇所も認識し改善していくことは重要です。学校はその出資者である学生と保護者、そして二次的な出資者ともいうべき卒業生の雇用者、教職員、そして社会全般に対しても一連のサービスを提供していると言えます。学校が用意する教育サービスの本質とクオリティを評価するために、様々な種類のデータを収集し比較することが必要となってきます。よって金沢高専にとって、毎年実施されている KTC 総合アンケートはひとつの鍵となる資料になります。

この調査の結果は教育成果を直接に計っているものではありませんが、学生と教員における様々な受け止め方や、彼らが抱えている印象を示してくれる重要な指標であると言えるでしょう。主観的ではあるものの、満足感や達成感は重要な目標であり、またプログラムそして職場としての学校のクオリティを指し示すものであります。

したがって、私たちは一般的な満足度を評価しようと試みており、またその満足度をより上げている要因、あるいは下げている要因となっているプログラムや施設の側面を把握することにも取り組んでいます。しかしながら、私たちが提示している「2020 Vision」の目標としては、満足だけには留まらずさらに先を目指しています。4つの主な目標としては、1) アカデミアを育てる、つまり学生と教員を含めた学習者のための協力コミュニティを育てる、2) 学校生活を彩りあるものにする、つまり私たちが提供する教育体験をできるだけ魅力的にそして刺激的なものにするよう努める、3) 個々の学生の唯一の個性やオリジナリティを評価し育てていく、そして4) 革新的な考え方をする人物を教育していく。これらの目標に向かって進歩しているかを見極めるために、そしてその目標により近づいていく方法を探るために、私たちはここにいただいたデータを注意深く分析していかなければいけません。

ご協力下さいました関係者の皆様に感謝の意を表したいと思います。

平成 27 年 6 月

金沢工業高等専門学校
校長 ルイス・バークスデール

It is important to continuously monitor the outcomes and effects of school programs, both to identify and build on strengths, and to identify and improve weaknesses. A school offers a series of services to its principal stakeholders—students and guardians, as well as to secondary stakeholders, which include employers, the school staff, and society at large. In order to assess the nature and quality of the educational services that the school provides, it is necessary to gather and compare data from a variety of sources. For KTC, one of the key sources is the annual KTC General Survey of students and faculty.

Although the results of this survey do not directly measure the educational outcomes of the KTC program, they provide an important indication of the range of attitudes the students and faculty hold, and impressions that they receive. However subjective, a sense of satisfaction and fulfillment is both an important goal and an indicator of the quality of programs and of the school as a workplace.

So we try to measure general satisfaction and identify aspects of our programs and facilities that promote or detract from it. The goals of our stated “2020 Vision,” however, go beyond satisfaction. Four main goals are: 1) to foster an Academia—that is, a cooperating community of learners (including both students and teachers); 2) to make school life “colorful”—that is, to ensure that the educational experiences we provide are as engaging and stimulating as possible; 3) to value and foster each student’s unique personal individuality and originality, in order to; 4) educate innovative thinkers. We must carefully analyze the data we have here in order to assess our progress towards these goals and to find ways to move closer to them.

I would like to thank the staff members who helped carry out this survey, as well as the many people who participated in it.

June, 2015

Kanazawa Technical College
Lewis Barksdale, President

全体概略

■調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生と教職員に金沢高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で12回目となる。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施しており、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、平成20年度からは年度末の実施に戻している。

■調査の概略

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とし、すべて無記名式とした。	
総回答数	590サンプル	
調査方法と回収数	1年生～5年生	・ 有効回答数 1年生:111サンプル、2年生:108サンプル、3年生:100サンプル、4年生:116サンプル、5年生:96サンプル ・ 各クラスで配布し、回収した。(配布&回収:平成27年2月13日)
	卒業生	・ 今回は実施せず。次回は平成28年度の予定。
	教職員	・ 有効回答数 59サンプル ・ 各教職員に配布し、回収した。(配布:平成27年2月2日、回収:平成27年2月21日)
	企業担当者	・ 今回は実施せず。次回は平成28年度の予定。
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

■集計に関して

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
呼称に関して	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年度の1年生から学科構成が「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報工学科」となっており、これまでの「電気情報工学科」「機械工学科」「国際コミュニケーション情報工学科」とは異なっているが、学科別集計、部会別集計では同系列の学科を合わせて集計を行った。 学科別に時系列の集計を行う場合には、同系列の学科を合わせて、「電気情報・電気電子」「機械」「国情・グローバル」という3つの学科として比較を行った。

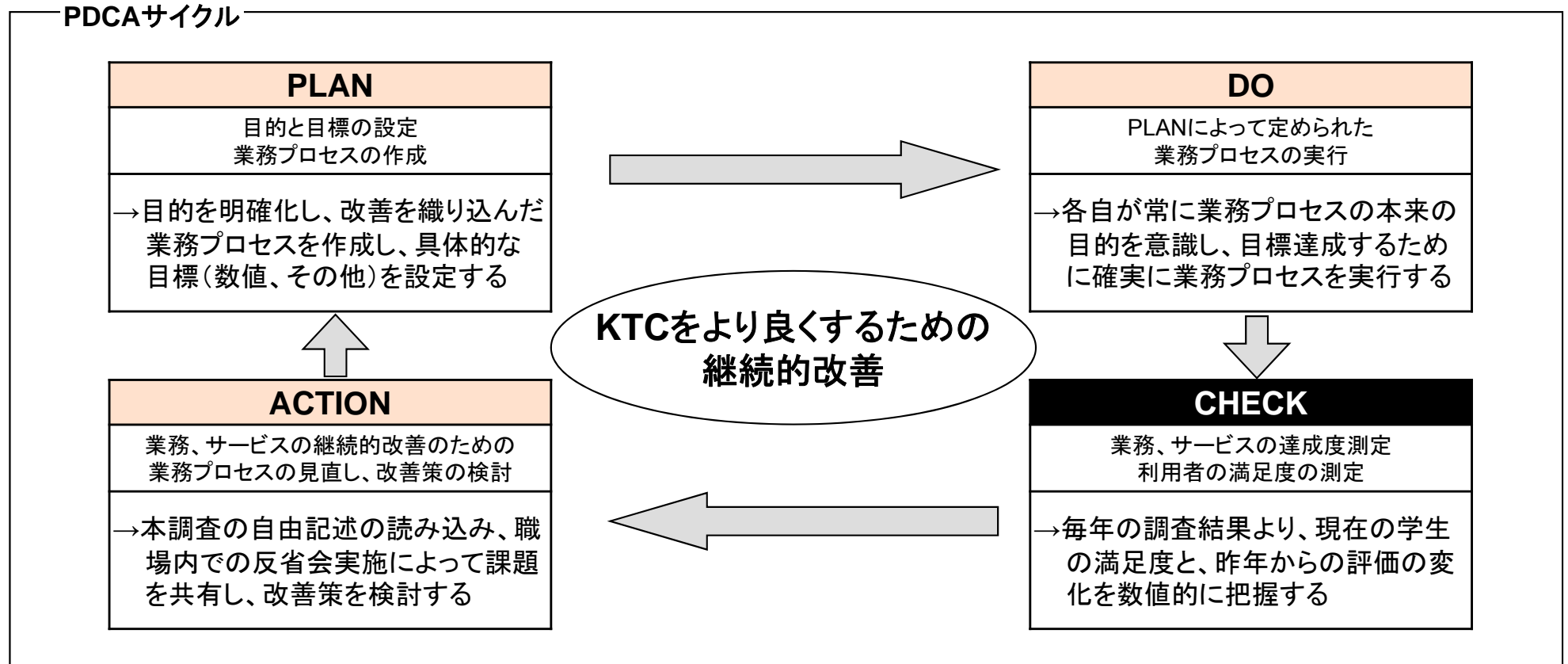
■回答者数に関して

学年	平成26年度 回答者 (今回分)	平成25年度 回答者	平成24年度 回答者	平成23年度 回答者	平成22年度 回答者	平成21年度 回答者	平成20年度 回答者	平成19年度 回答者	平成18年度 回答者	平成17年度 回答者数	平成16年度 回答者数	平成15年度 回答者数
1年	111人	112人	130人	134人	115人	81人	110人	92人	121人	122人	135人	140人
2年	108人	120人	128人	113人	79人	104人	105人	108人	117人	130人	135人	127人
3年	100人	108人	93人	63人	80人	92人	95人	88人	113人	113人	98人	113人
4年	116人	101人	76人	91人	102人	103人	103人	114人	121人	113人	109人	121人
5年	96人	75人	85人	98人	99人	96人	111人	124人	105人	101人	116人	129人
卒業生	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	73人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	77人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	66人
教職員	59人	48人	55人	55人	62人	53人	59人	52人	50人	48人	56人	50人
企業担当者	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	71人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	36人	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	0人 (実施せず)	65人
合計	590人	564人	567人	698人	537人	529人	696人	578人	627人	627人	649人	811人

PDCAサイクルに関して

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、CHECKステップに位置づけられる。



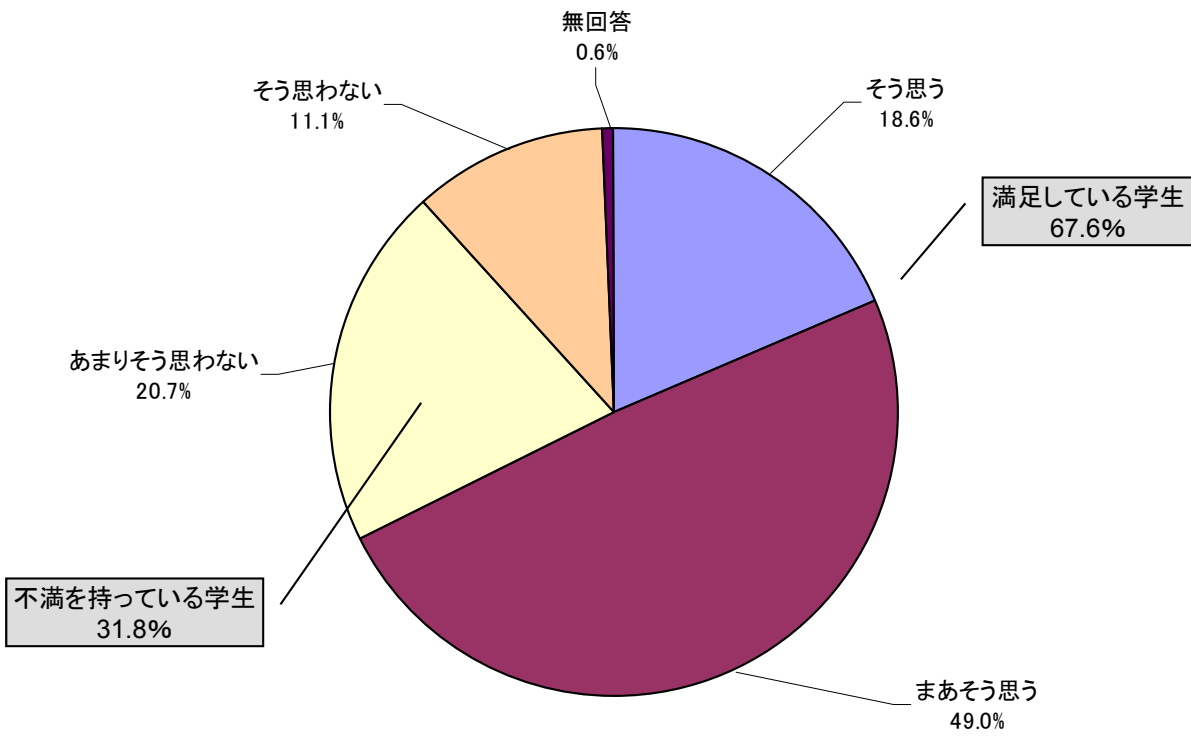
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考として位置づけられるものである。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

金沢高専の総合的な満足度

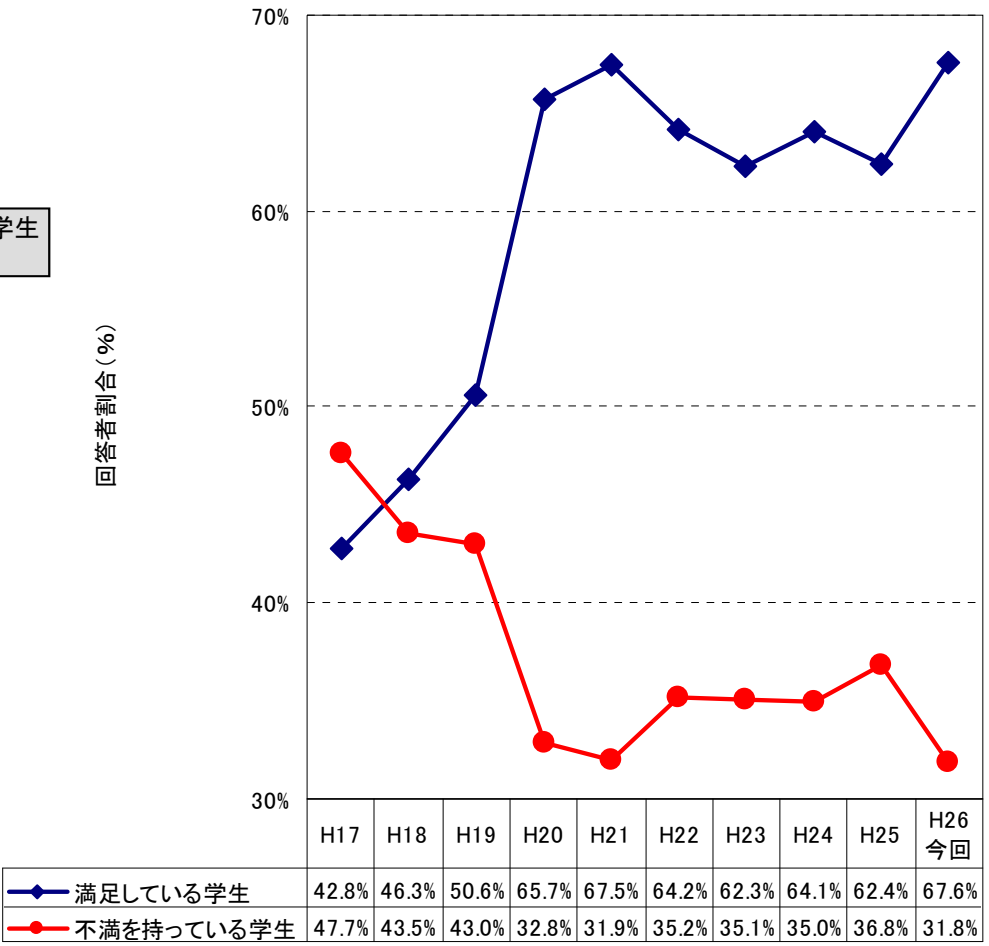
■本年度の総合的な満足度

- 最も重要な指標の一つである「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」という設問に対しては、「そう思う」が18.6%、「まあそう思う」が49.0%で、合計すると67.6%が満足回答しており、不満を持っている31.8%との差は35.8ポイントであった。
- 「満足している学生」の割合を年度別に比較したところ、「満足している学生」の割合は前回(H25)を5.2ポイント上回っていた。また、過去最高だったH21の67.5%をも0.1ポイント上回り、これまでで最高となっていた。

■総合的に見て金沢高専に満足していますか？(在校生のみ)



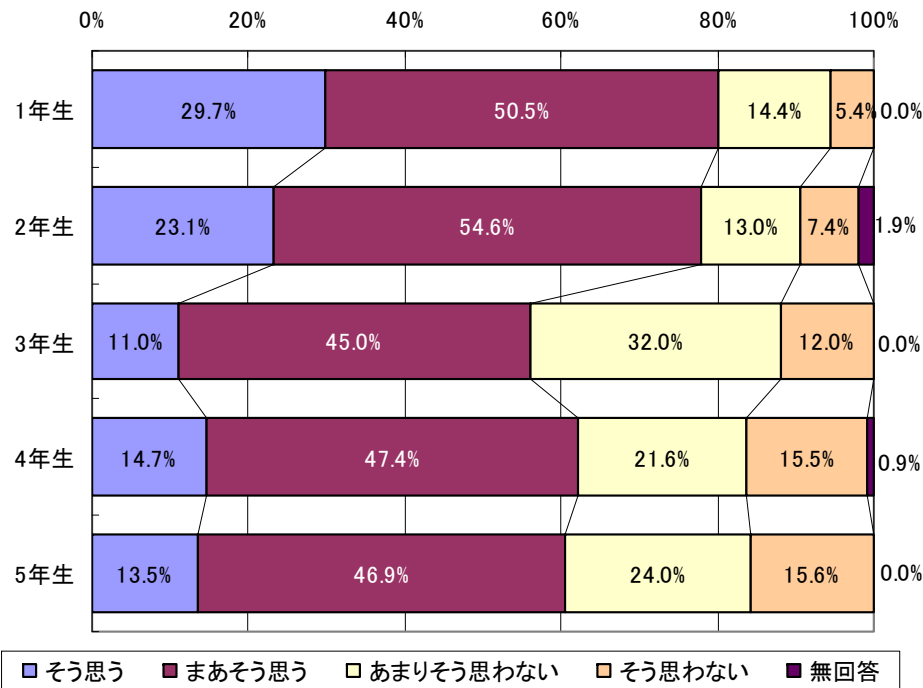
■金沢高専の総合的満足度 年度別比較



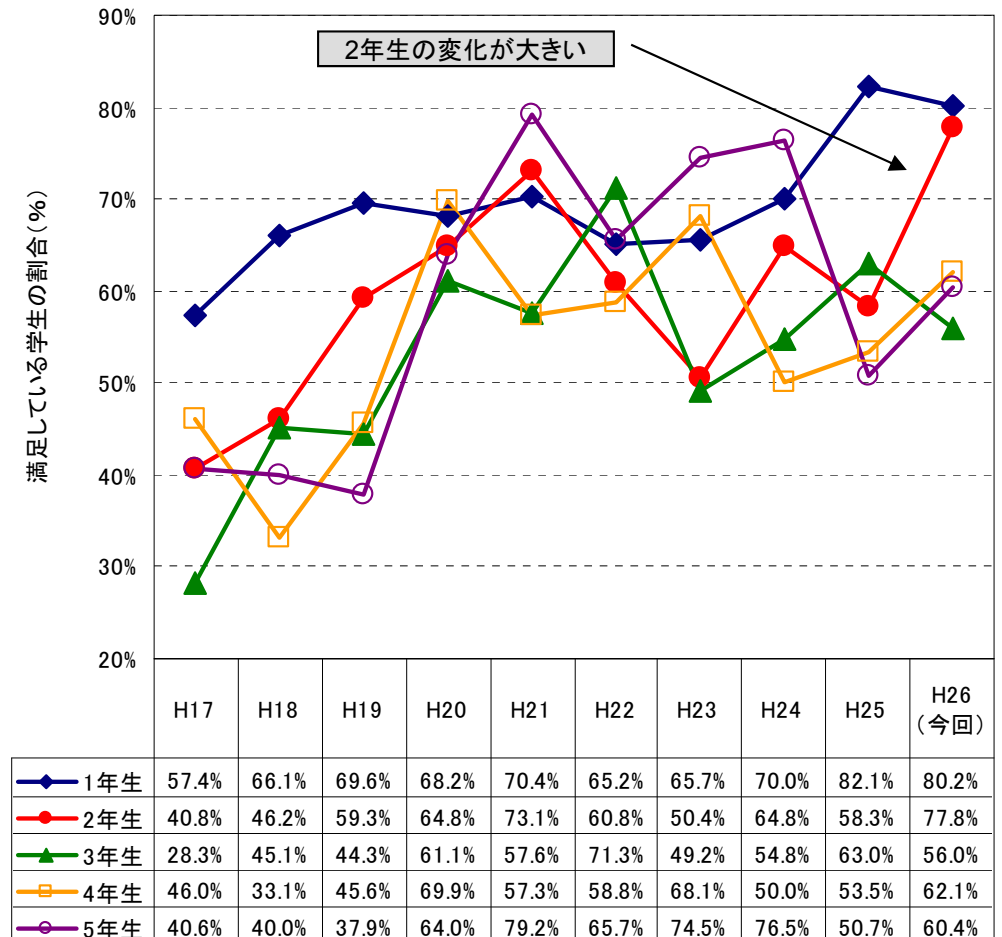
■総合的満足度の学年別比較

- 前項で見た「高専の総合的満足度」を学年別に比較したところ、「1年生」は肯定的な意見が80.2%と最も満足度が高かった。そして、「2年生」が77.7%と続いており、この2つの学年の満足度の高さが目立っていた。
- 肯定的な意見の割合を学年別・年度別に見たところ、最も目立っていたのは「2年生」であり、「満足」の割合は前回の58.3%から19.5ポイント増加して過去最高となっていた。また、「4年生」と「5年生」も前回を上回っていたが、両学年ともに以前と比較すると決して高いものではないと言える。
- 今回、「1年生」の満足度は高かったものの、前回より低下して過去2番目となり、「3年生」の満足度も前回より7.0ポイント低下していた。

■金沢高専の総合的満足度 学年別比較



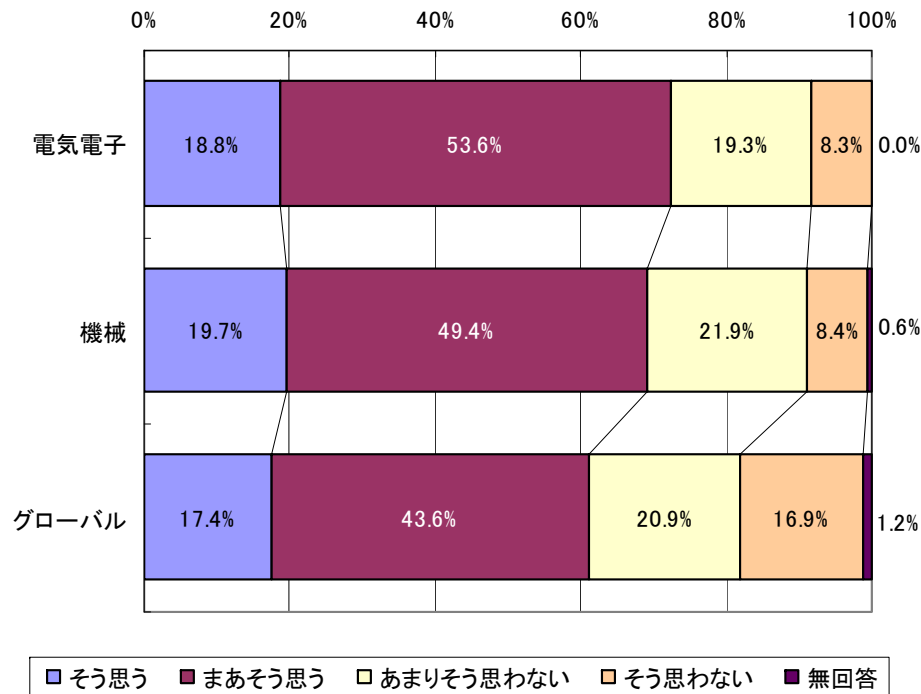
■金沢高専の総合的満足度 学年別・年度別比較



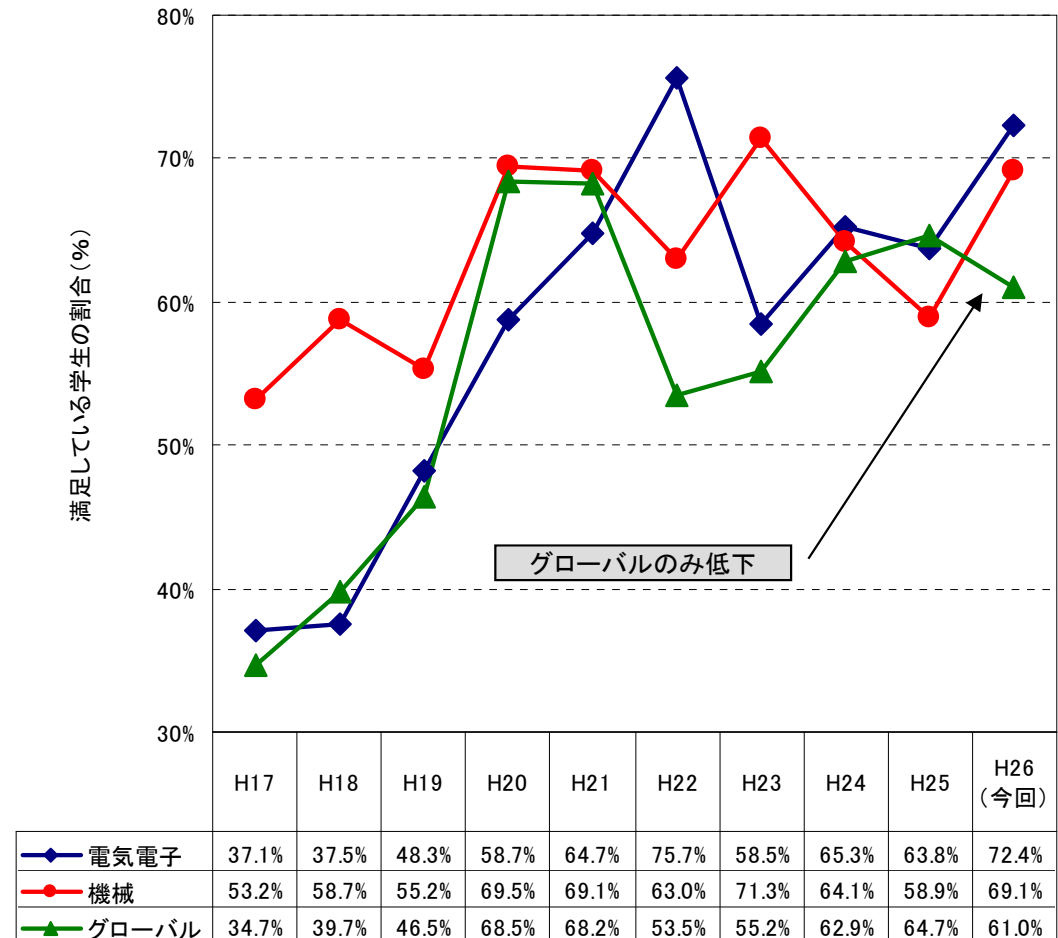
■総合的満足度の学科別比較

- 「高専の総合的満足度」を学科別に比較すると、「電気電子」では72.4%、「機械」では69.1%が満足と回答しており、この2つの学科の間の差は少なかった。2学科と比べてやや低かったのが「グローバル」で、満足という回答は61.0%となっていた。
- 学科別の経年変化を見ると、「グローバル」のみが前年を3.7ポイント下回っていた。一方、残りの2つの学科は前年を大きく上回っており、前回との差は「機械」で10.2ポイント、「電気電子」で8.6ポイントとなっており、特に「電気電子」は過去2番目の高さであった。

■金沢高専の総合的満足度 学科別比較(在学生のみ)



■金沢高専の総合的満足度 学科別・年度別比較

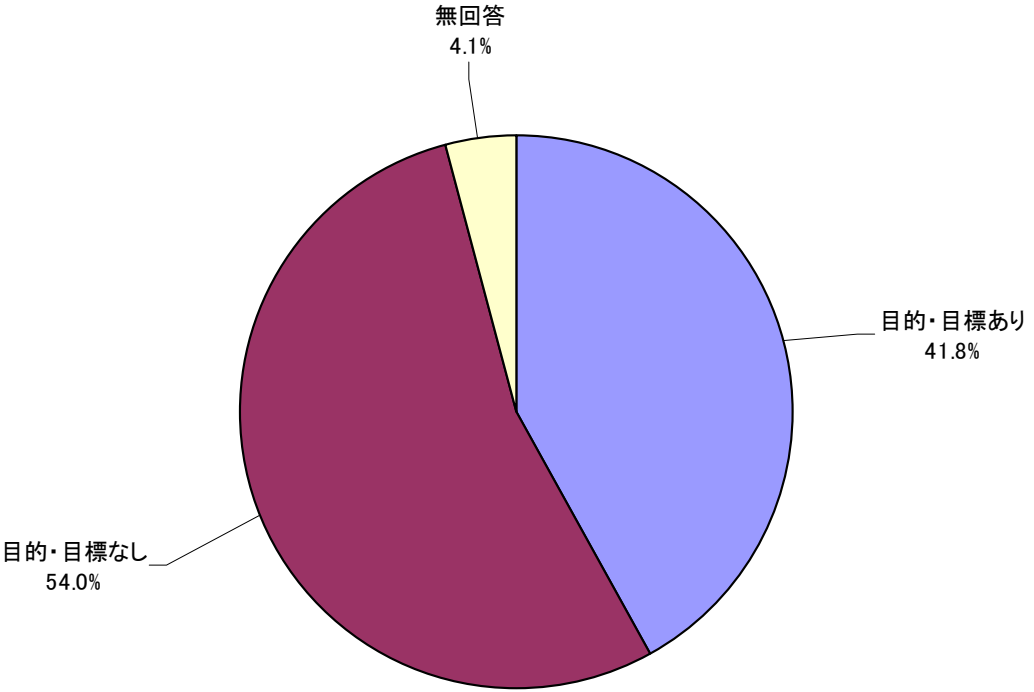


目的・目標に関する意識に関して

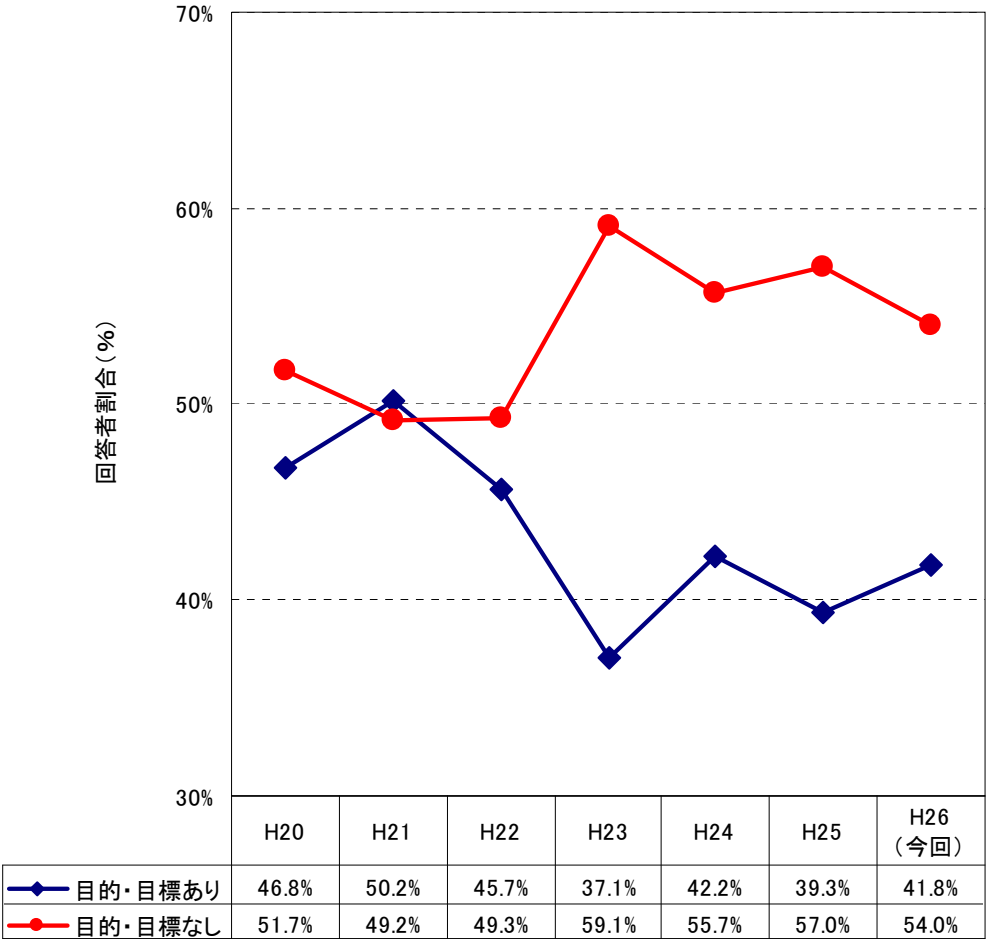
■在学中の「目的・目標」の意識

- 「高専生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？」という質問に対しては、「目的・目標あり」が41.8%、「目的・目標なし」が54.0%となっていた。
- 経年変化を見ると、「目的・目標あり」は前回より2.5ポイント増加し、「目的・目標なし」は3.0ポイントの減少となって、H24あたりから横這いが続いていた。

■在学中の「目的・目標」の意識



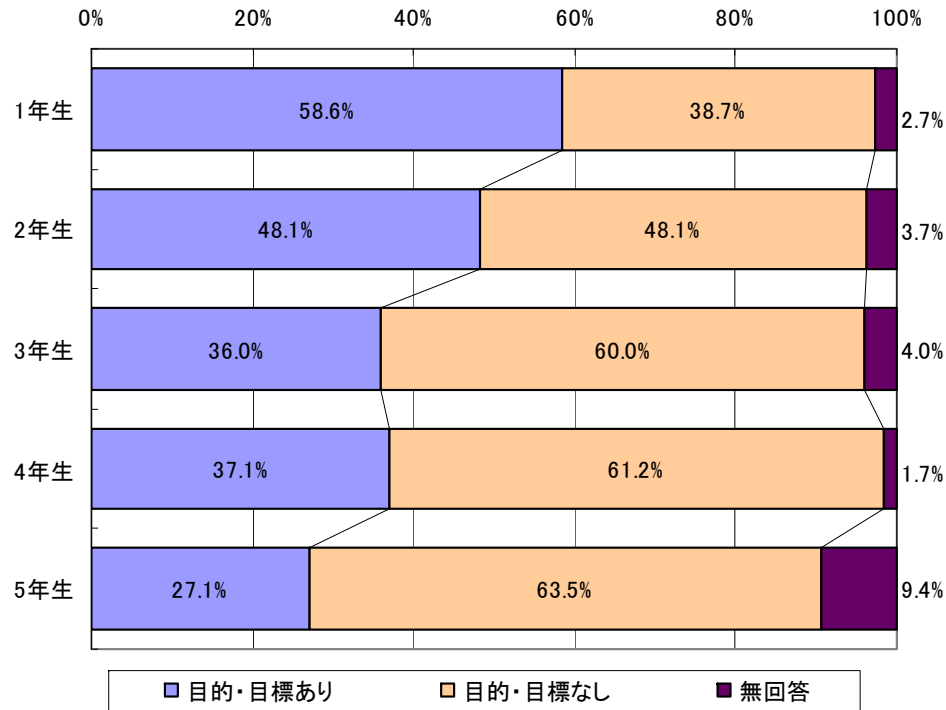
■在学中の「目的・目標」の意識 年度別比較



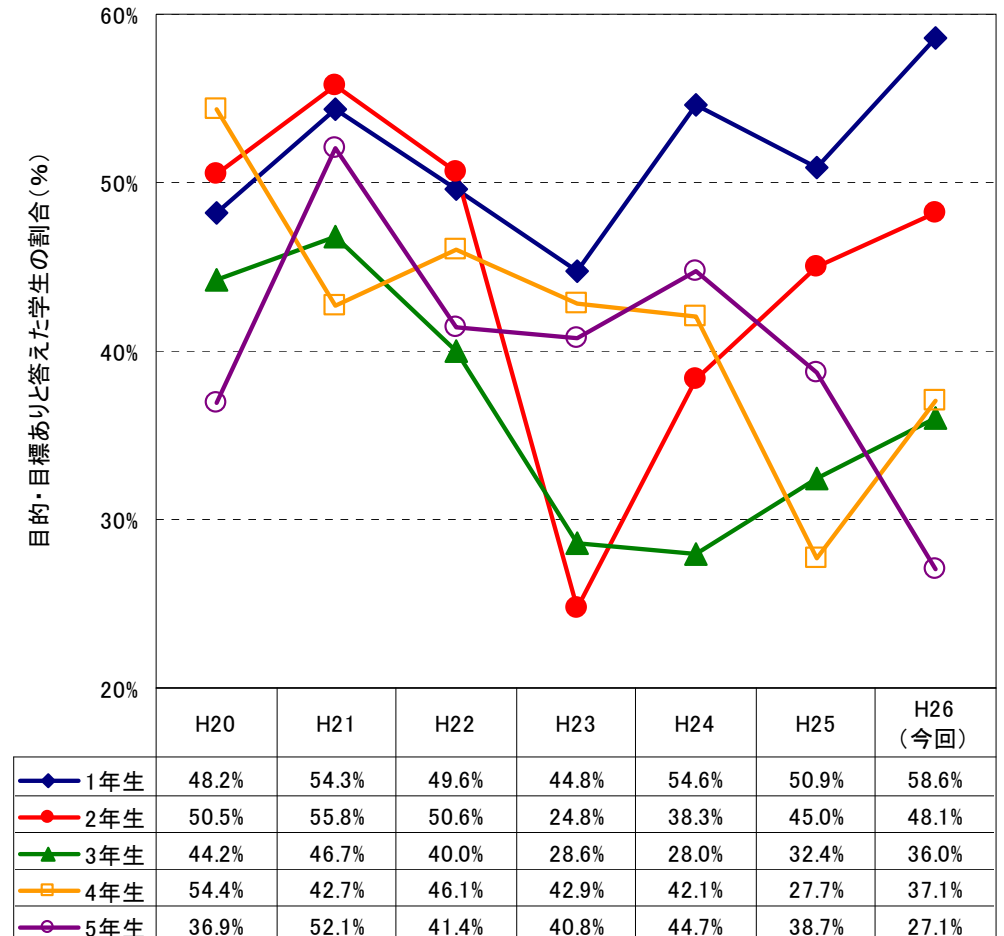
■「目的・目標」の意識の学年別比較

- 「目的・目標」の意識を学年別に比較したところ、「目的・目標あり」が最も多かったのは「1年生」の58.6%であった。「1年生」から「3年生」までは学年が上がるほど減少して、「4年生」でわずかに増加し、最も少なかったのは「5年生」の27.1%であった。「1年生」と「5年生」の差は31.5ポイントと、大きく離れていた。
- 学年別・年度別比較を見ると、「5年生」は前回より11.6ポイントと大きく低下してこれまでで最も低くなっていた。一方、それ以外の学年はいずれも前回は上回り、「1年生」はH25に低下したものの、今回にかけては7.7ポイント上回って過去最高となっており、「2年生」は3年連続、「3年生」は2年連続で前回は上回っていた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学年別比較



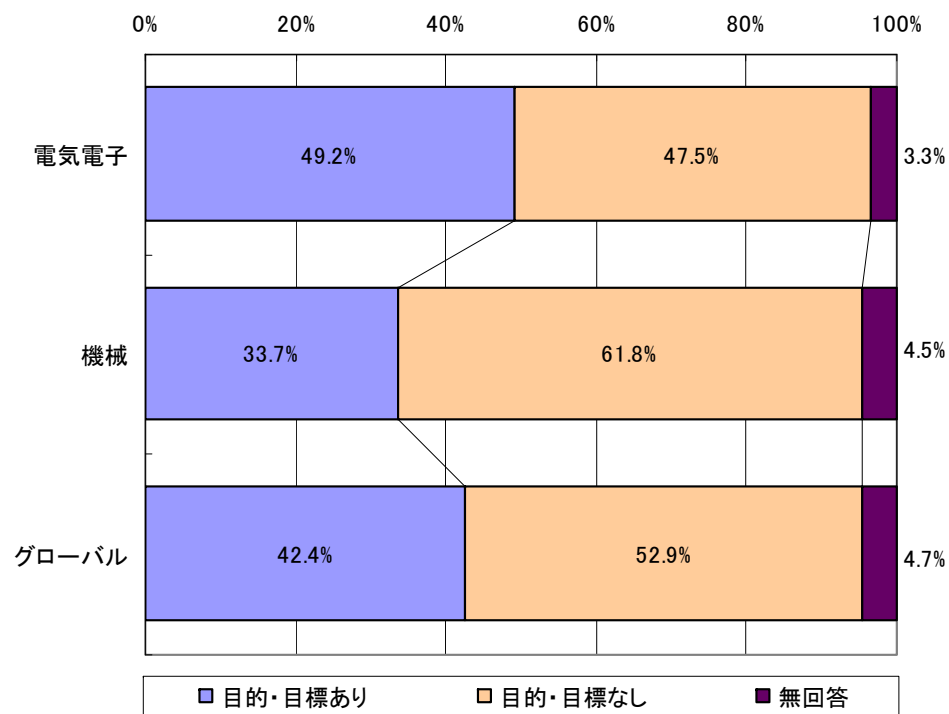
■在学中の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



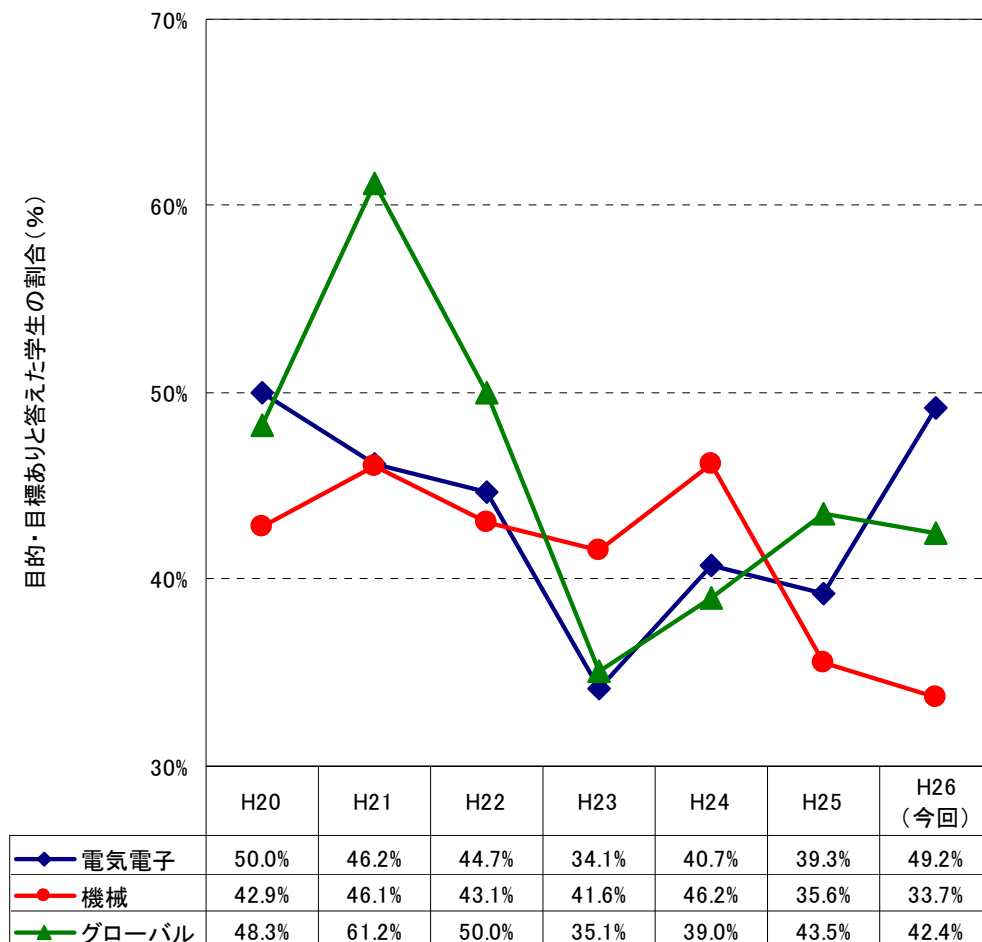
■「目的・目標」の意識の学科別比較

- 「目的・目標」の意識を学科別に比較したところ、「目的・目標あり」が最も多かったのは「電気電子」の49.2%であり、「グローバル」が42.4%、「機械」が33.7%と続いており、「電気電子」と「機械」の差は15.5ポイントであった。
- 学科別・年度別比較を見ると、「電気電子」が前回は9.9ポイントと大きく上回って過去2番目の高さとなっていた。そして、他の2学科はいずれもわずかに前回は下回っており、「機械」は2年連続の低下で、これまでで最も低くなっていた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学科別比較



■在学中の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較

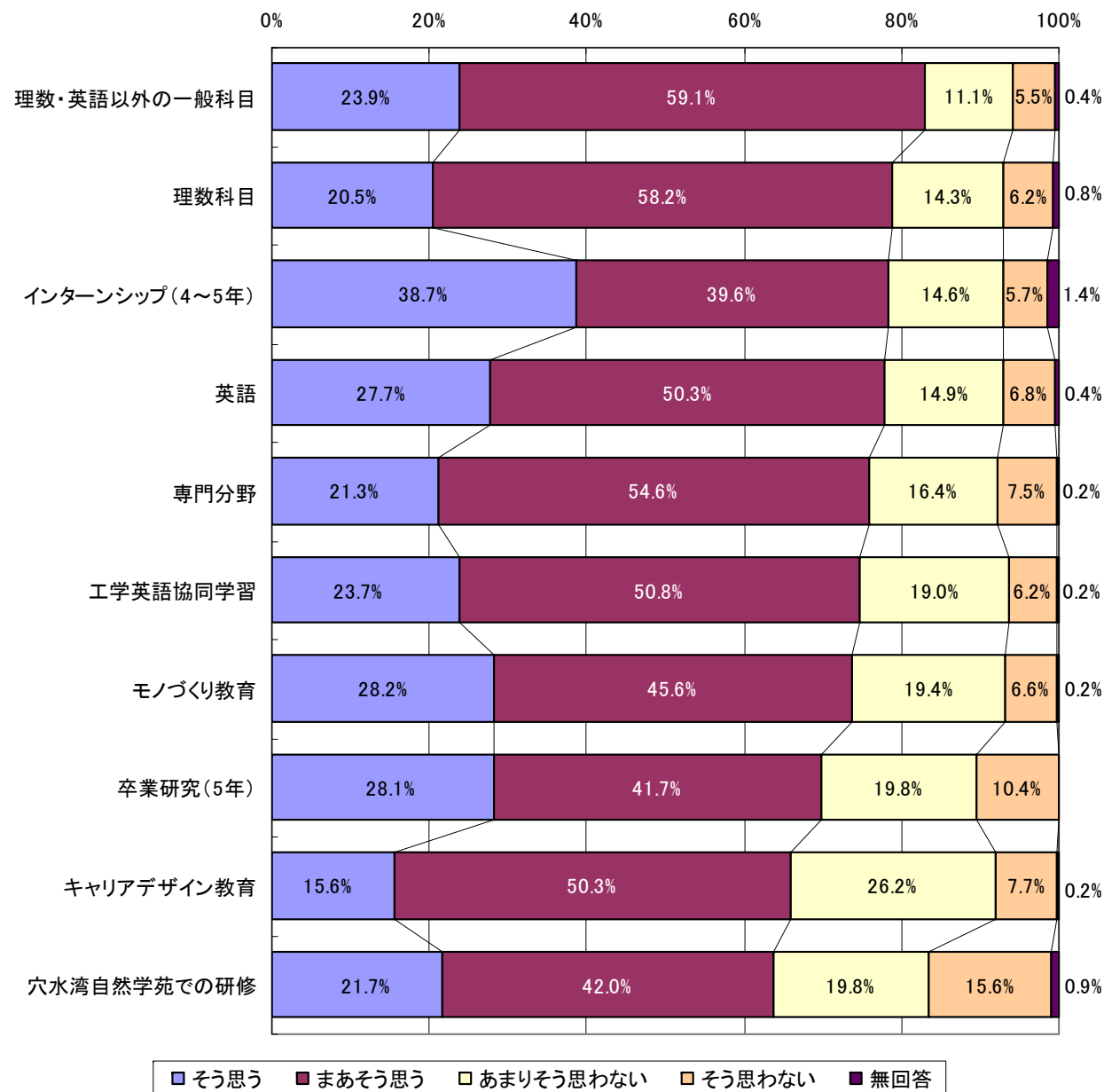


授業に関して

■授業に対する評価

- 授業に対する評価は10の分野に関して聞いているが、肯定的な意見が最も多かったのは「理数・英語以外の一般科目」の83.0%であり、この科目だけが80%を超えていた。
- 上記に次いで「理数科目」が78.7%、「インターンシップ」が78.3%と続いていたが、「そう思う」という回答だけを見ると「インターンシップ」が38.7%で他を大きく上回っていた。
- 一方、満足度が最も低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」であり、肯定的な意見は63.7%であった。そして、「キャリアデザイン教育」が65.9%、「卒業研究」が69.8%、「モノづくり教育」が73.8%と続いていたが、「卒業研究」と「モノづくり教育」は「そう思う」の割合が高く、一部の学生はしっかりと充実感を感じている様子もうかがえた。

■授業に対する満足度（在学生のみ）

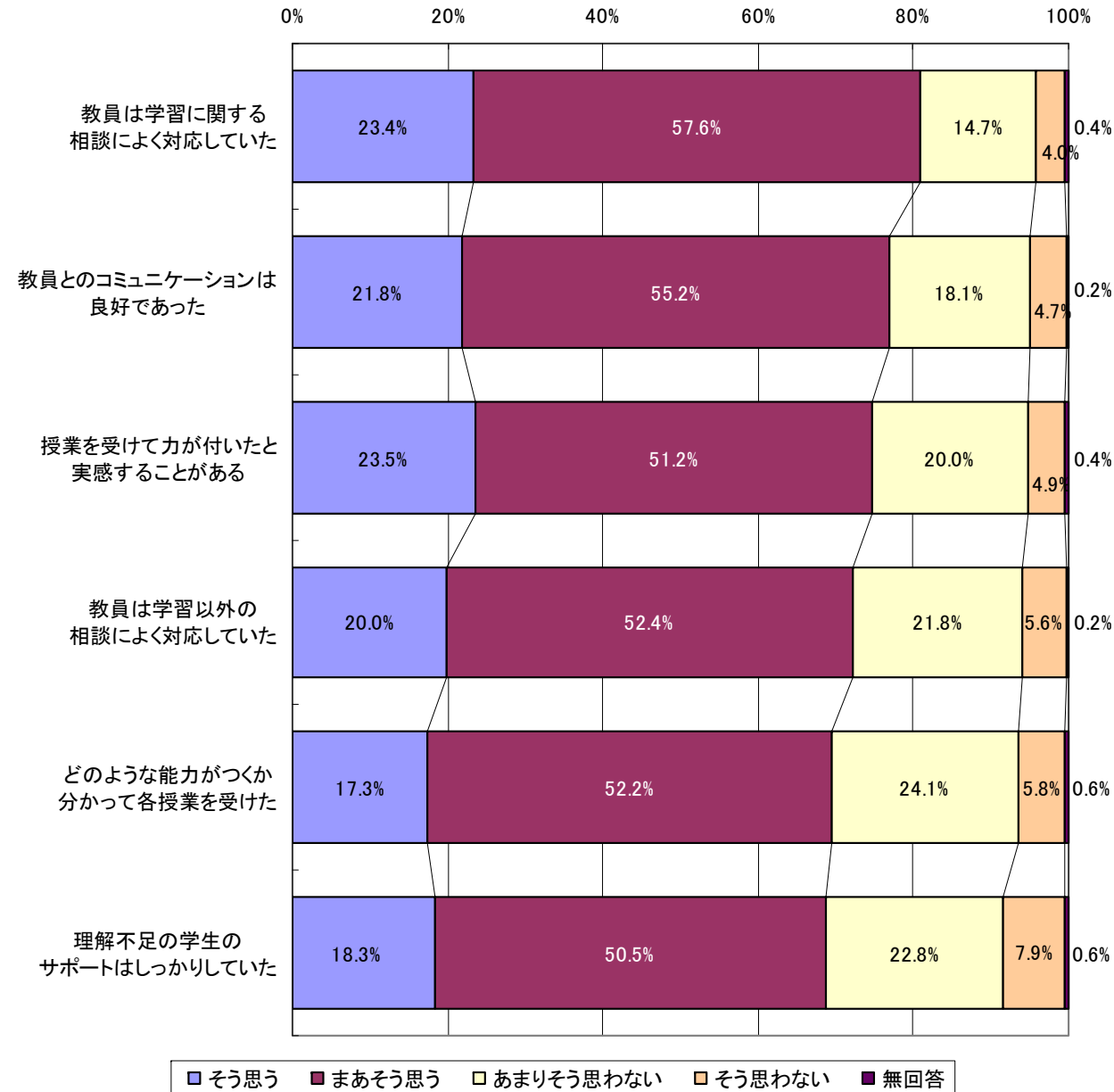


教員および学習支援に関して

■教員および学習支援の満足度

- 教員および学習支援の満足度では6つの項目の評価を聞いているが、最も評価が高かったのは「教員は学習に関する相談によく対応していた」であり、肯定的な意見が81.0%であった。
- 上記に次いで、「教員とのコミュニケーションは良好であった」が77.0%、「授業を受けて力が付いたと実感することがある」が74.7%と続いていた。
- 満足度が最も低かったのは「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」であり、肯定的な意見は68.8%であった。そして、「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」は69.5%であり、この2つの項目では肯定的な意見が7割に満たなかった。

■教員および学習支援の満足度（在学生のみ）

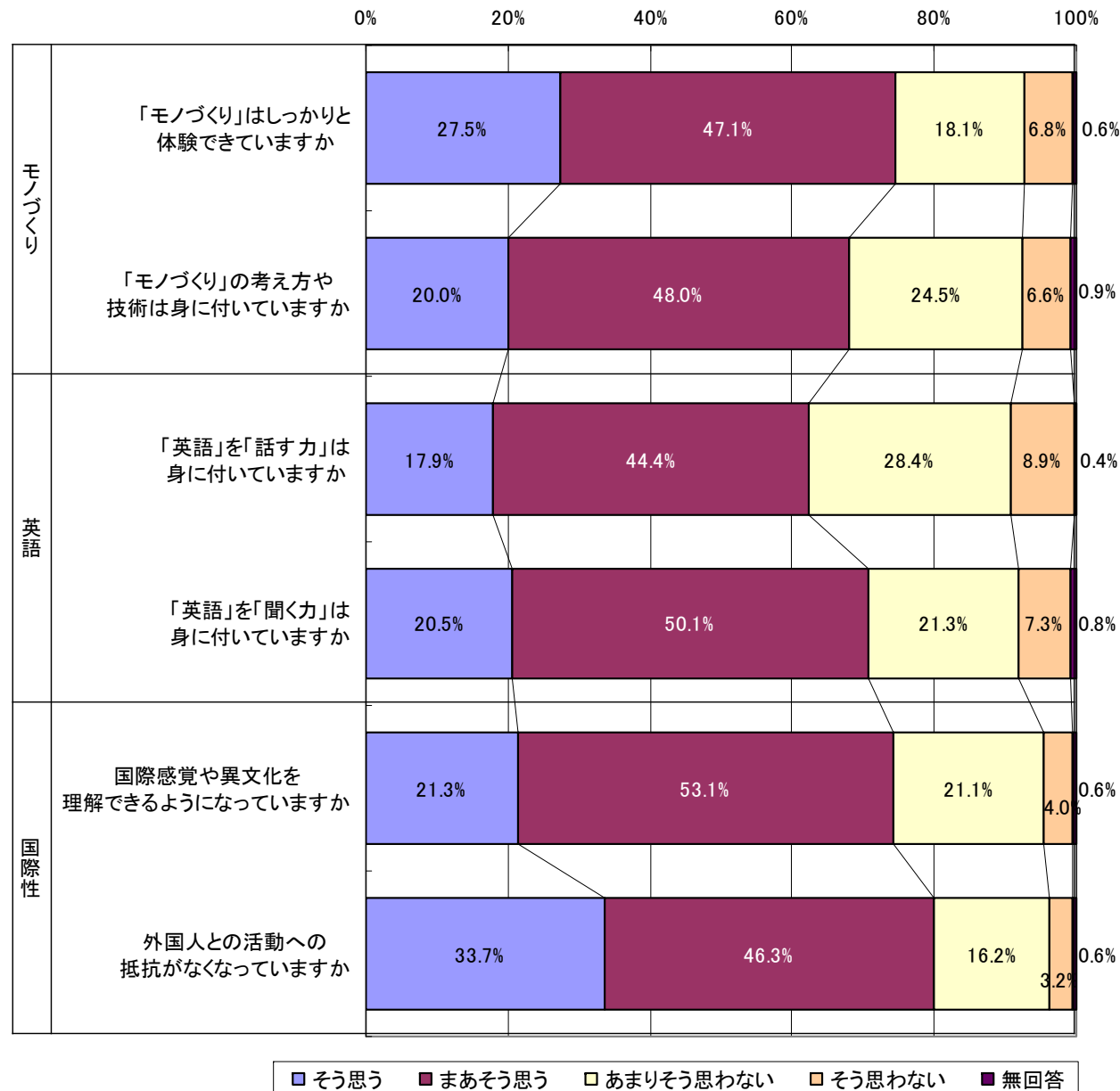


「モノづくり」「英語」「国際性」に関して

■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価

- 「モノづくり」「英語」「国際性」という、特徴的な分野に関する評価を確認した。
- 「モノづくり」の「しっかりと体験できていますか」という問いに対しては、「そう思う」が27.5%、「まあそう思う」が47.1%であり、合計すると74.6%が肯定的な意見であった。そして、「モノづくりの考え方や技術は身に付いていますか」に対しては68.0%が肯定的な意見であった。
- 「英語」に関しては、「話す力」では62.3%、「聞く力」では70.6%が肯定的な意見であり、「話す力」の評価がやや低かった。
- 「国際性」の「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」では74.4%、「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」では80.0%が肯定的な意見であり、3つの分野では「国際性」の評価がやや高めとなっていた。

■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価（在学生のみ）



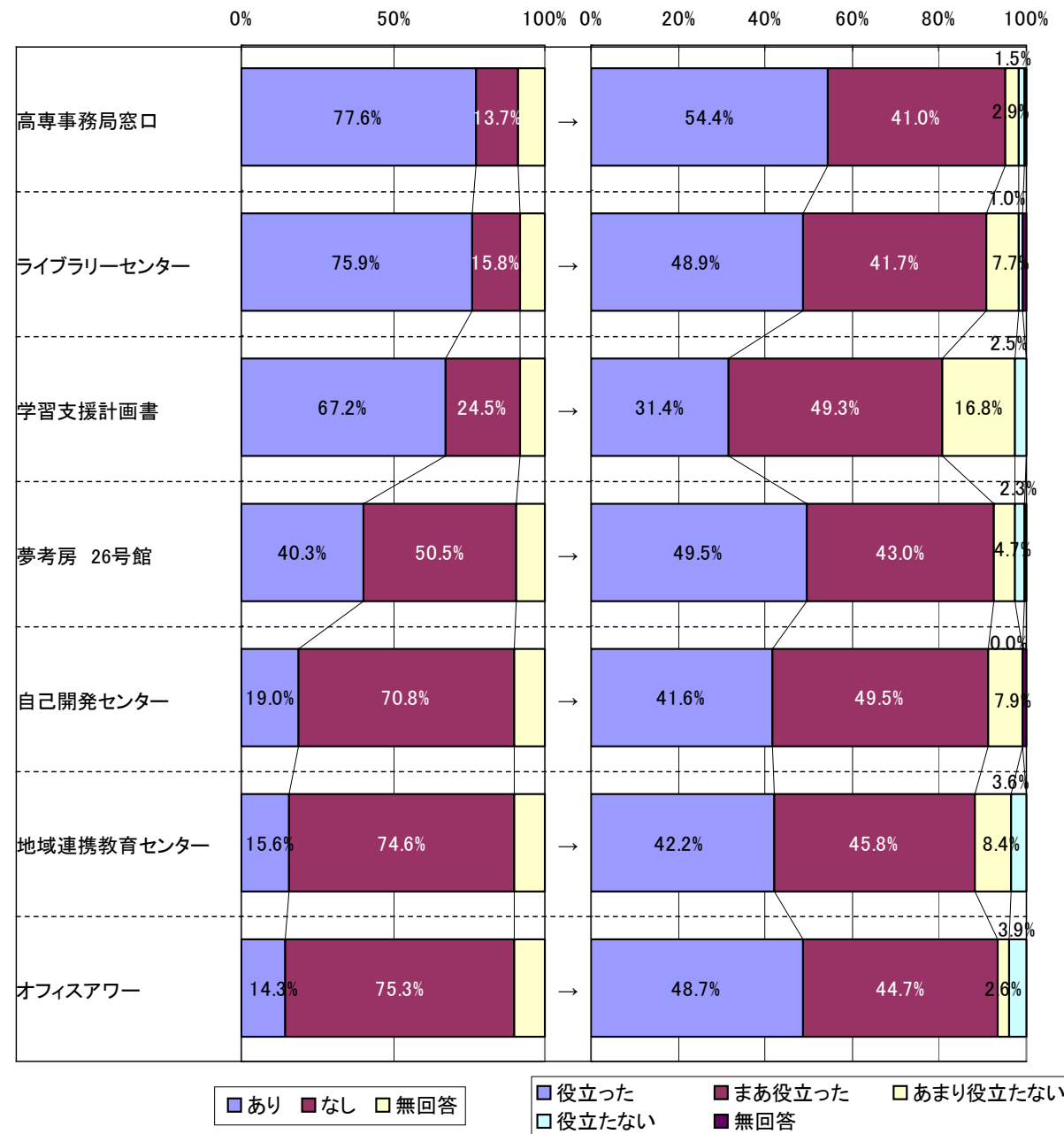
学生サポートに関して

■学生サポートの満足度

- 学生サポートの利用の有無を見たところ、最も利用率が高かったのは「高専事務局窓口」の77.6%であった。次いで、「ライブラリーセンター」が75.9%、「学習支援計画書」が67.2%と続いていた。
- 利用率が低かったのは「オフィスアワー」(14.3%)、「地域連携教育センター」(15.6%)、「自己開発センター」(19.0%)であり、この3つの利用率は2割に満たなかった。
- 満足度はいずれも高く、役立ったという意見はすべて8割を超えており、最も評価が低い「学習支援計画書」でも80.7%が肯定的な意見であった。
- 満足度に関しては差が少ないため「役立った」という回答だけで比較をすると、最も評価が高かったのは「高専事務局窓口」の54.4%であり、「夢考房26号館」(49.5%)、「ライブラリーセンター」(48.9%)、「オフィスアワー」(48.7%)と続いていた。
- 「オフィスアワー」「地域連携教育センター」「自己開発センター」は利用率は低いものの満足度自体は低いものではなく、利用者からは高く評価されていることがうかがえた。

■学生サポートの利用の有無(左グラフ)と満足度(右グラフ)

(※満足度は利用者からの結果)

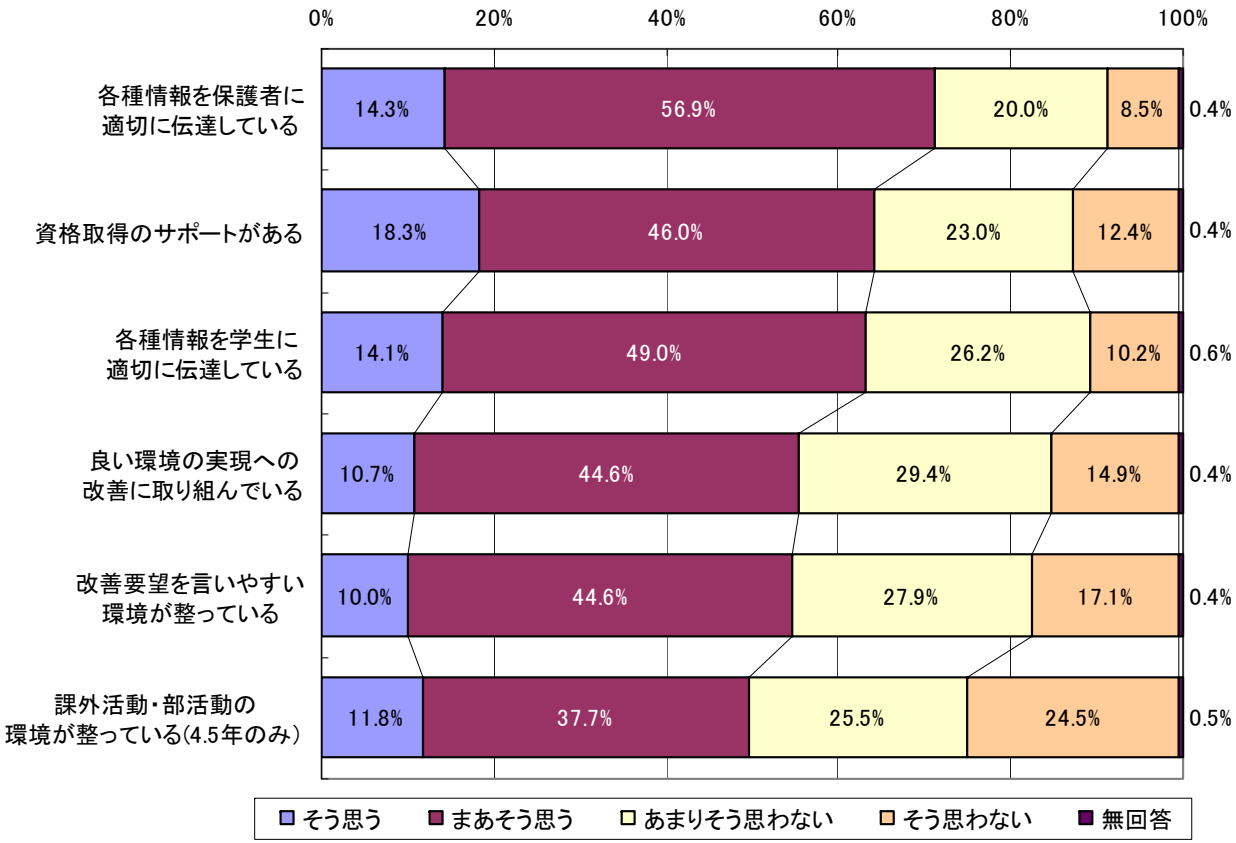


学校の取り組み姿勢に関して

■学校の取り組み姿勢の評価

- 情報伝達や環境改善など、学校の取り組み姿勢に関する6つの項目の評価を聞いた。
- 最も評価が高かったのは「各種情報を保護者に適切に伝達している」であり、「そう思う」が14.3%、「まあそう思う」が56.9%であり、合わせると71.2%が肯定的な評価であった。
- 次いで、「資格取得のサポートがある」では64.3%、「各種情報を学生に適切に伝達している」では63.1%が肯定的な評価をしていた。
- 一方、評価が最も低かったのは「課外活動・部活動の環境が整っている」であり、肯定的な意見は49.5%と半数に満たなかった。この質問は「4年生」と「5年生」だけに聞いたものであるが、学生はこのあたりに不満がありそうであった。

■学校の取り組み姿勢の評価（在学生のみ）

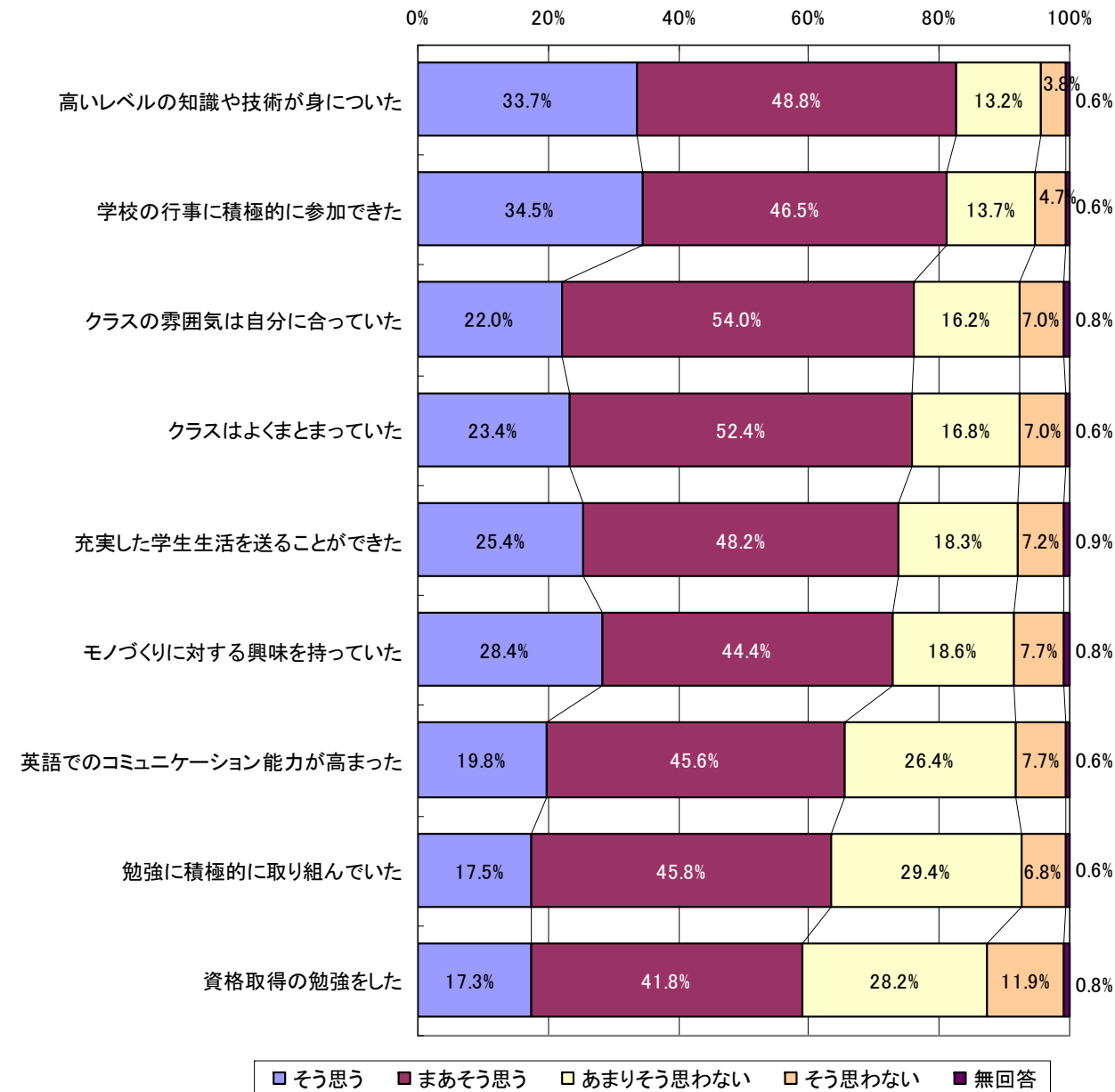


学校での過ごし方に関して

■学校での過ごし方

- カリキュラムの効果や学生生活のことなど、学校での過ごし方に関して9項目の質問をした。
- 肯定的な意見が最も多かったのは「高いレベルの知識や技術が身についた」であり、「そう思う」(33.7%)と「まあそう思う」(48.8%)の合計は82.5%で、評価は非常に高かった。
- 次いで「学校の行事に積極的に参加できた」が81.0%、「クラスの雰囲気は自分に合っていた」が76.0%、「クラスはよくまとまっていた」が75.8%と続いていたが、「そう思う」という回答だけで見ると「学校の行事に積極的に参加できた」が34.5%と最も多く、強く満足している学生が多かったことがうかがえる。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「資格取得の勉強をした」であり、肯定的な意見は59.1%であった。そして、「勉強に積極的に取り組んでいた」が63.3%、「英語でのコミュニケーション能力が高まった」が65.4%となっており、このあたりに課題があるものと思われる。

■学校での過ごし方(在学生のみ)

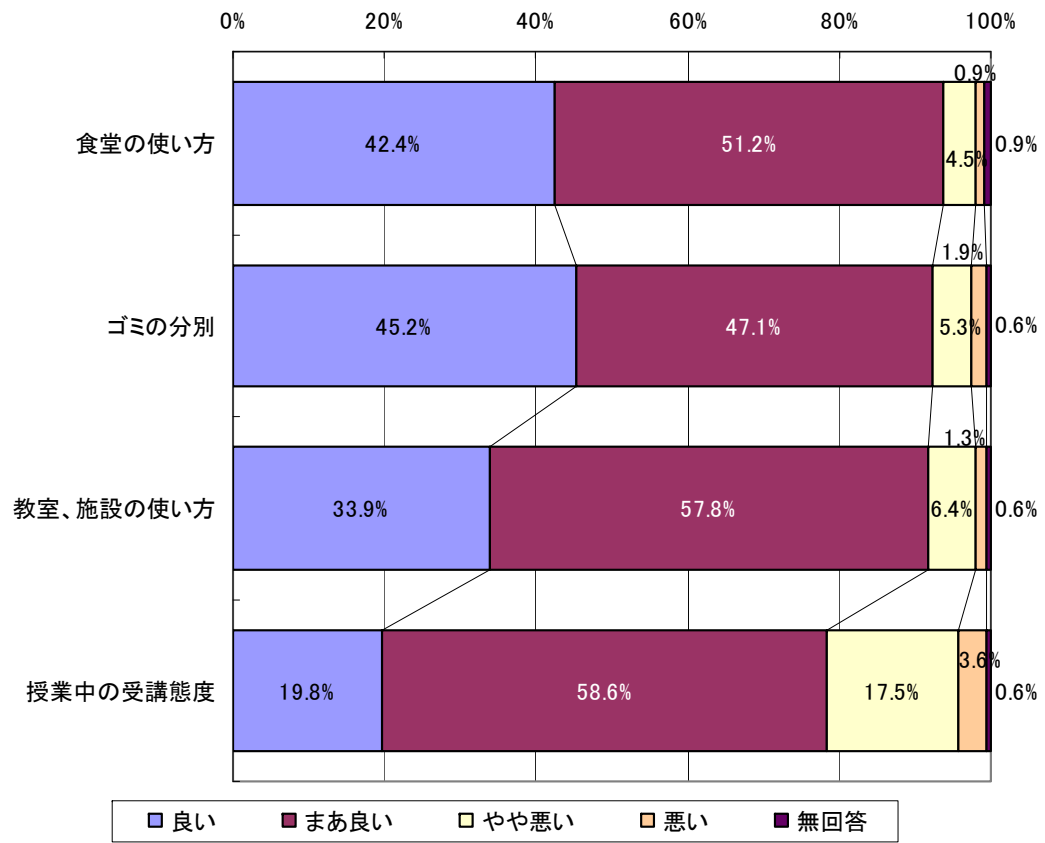


学内での自分自身のマナーに関して

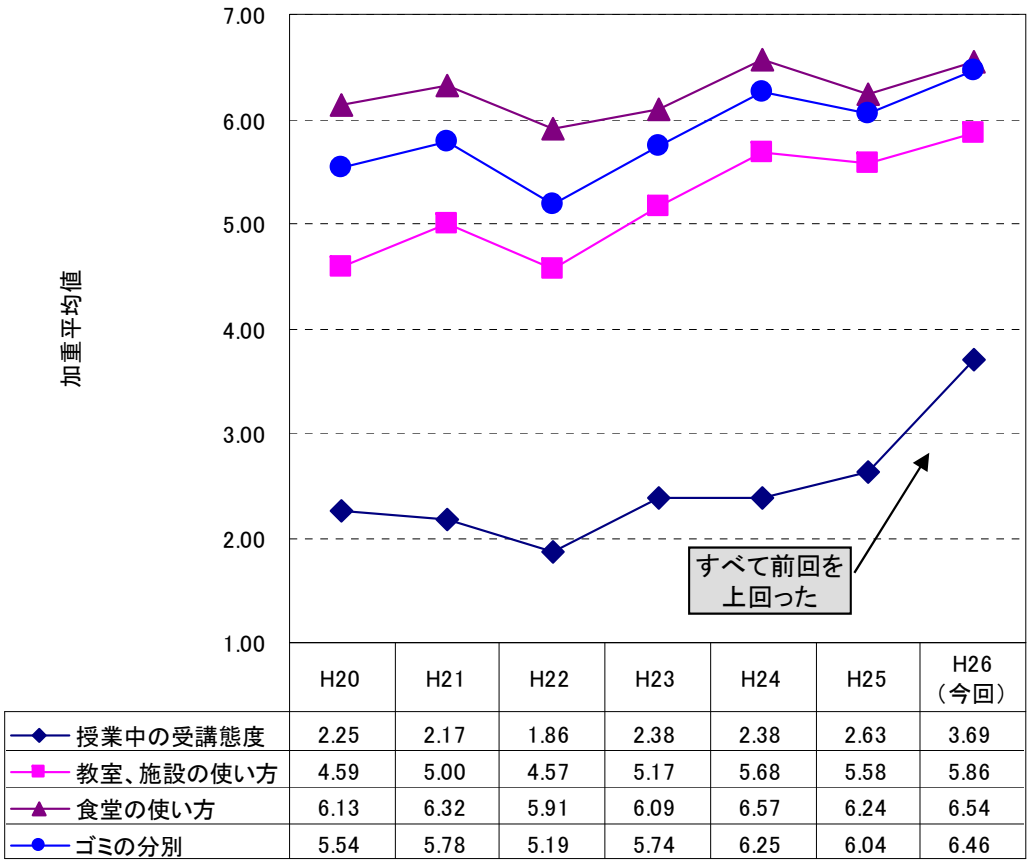
■学内での自分自身のマナー

- 学内でのマナーに関しては、学生に対しては「自分自身のマナーをどう思うか？」と自己評価を聞く質問をしている。
- 全体的に評価は高かったが、最も高いのは「食堂の使い方」であり、93.6%が肯定的な意見であった。次いで「ゴミの分別」では92.3%、「教室、施設の使い方」では91.7%が肯定的な意見であり、最も低い「授業中の受講態度」でも78.4%と、全般的に非常に高い自己評価となっていた。
- 年度別比較ではすべての項目で前回は上回っていた。特に目立っていたのは「授業中の受講態度」で、前回と比べて大きく評価が上がっており、過去最高となっていた。

■学内での自分自身のマナー(在学生のみ)



■学内での自分自身のマナー 年度別比較

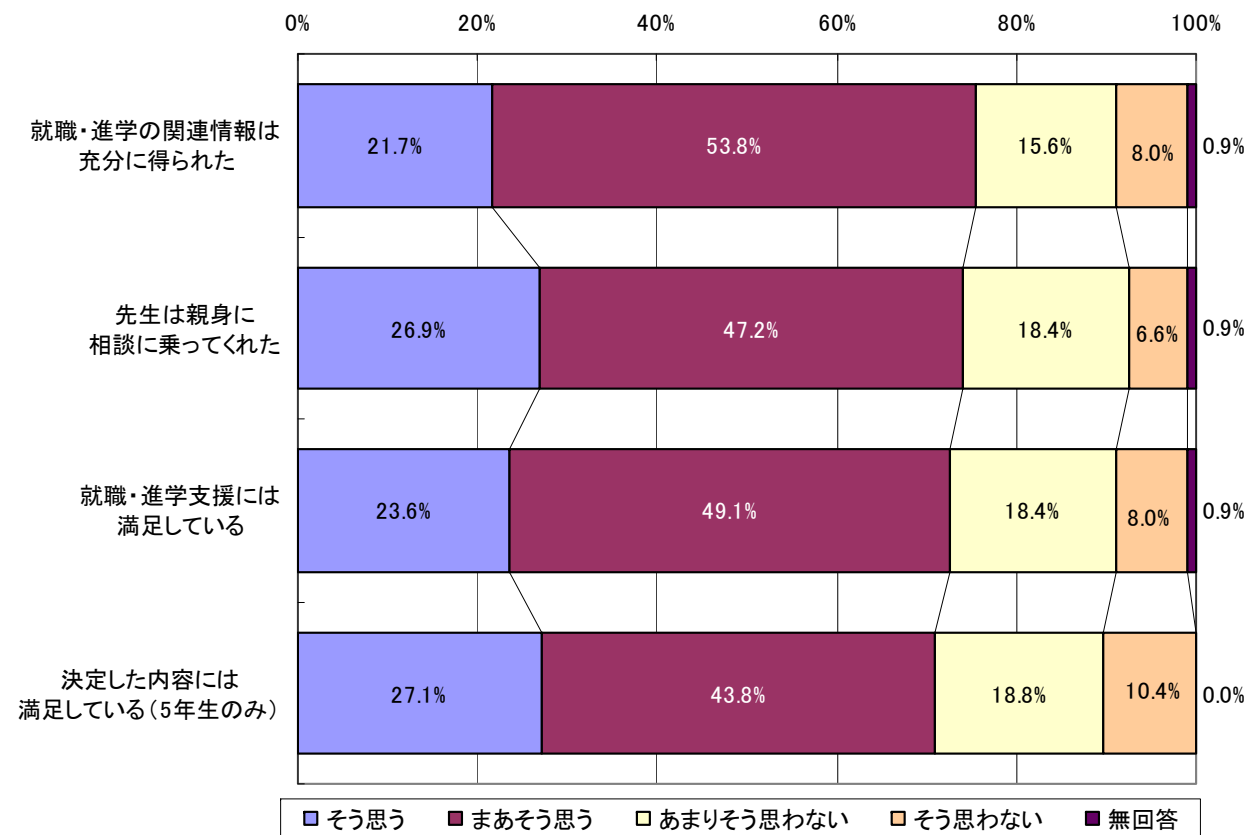


就職・進学支援に関して

■就職・進学支援に関して

- 就職・進学支援に関する質問は4年生と5年生だけに聞いているが、全般的に高い評価となっていた。
- 最も評価が高かったのは「就職・進学の関連情報は十分に得られた」であり、「そう思う」が21.7%、「まあそう思う」が53.8%で、合計すると75.5%が肯定的な意見となっていた。
- 次いで「先生は親身に相談に乗ってくれた」が74.1%、「就職・進学支援には満足している」が72.7%となっていた。
- 「決定した内容には満足している」は「5年生」のみに聞いている質問であるが、「そう思う」が27.1%、「まあそう思う」が43.8%であり、70.9%は満足という回答であった。一方で不満という回答は合計で29.2%となっていた。

■就職・進学支援の評価(4年生、5年生のみ)

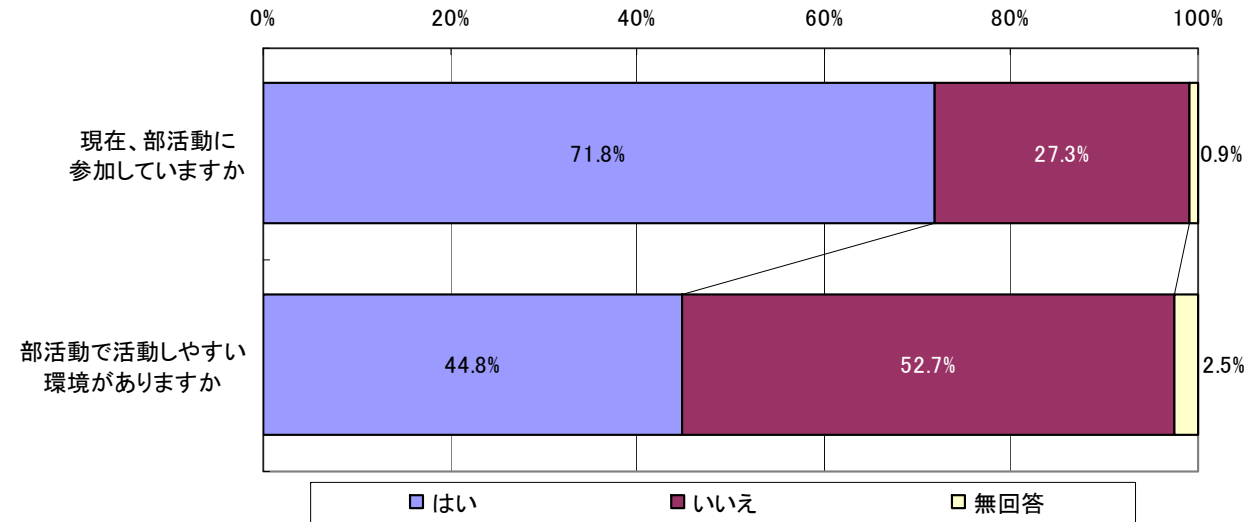


部活動に関して

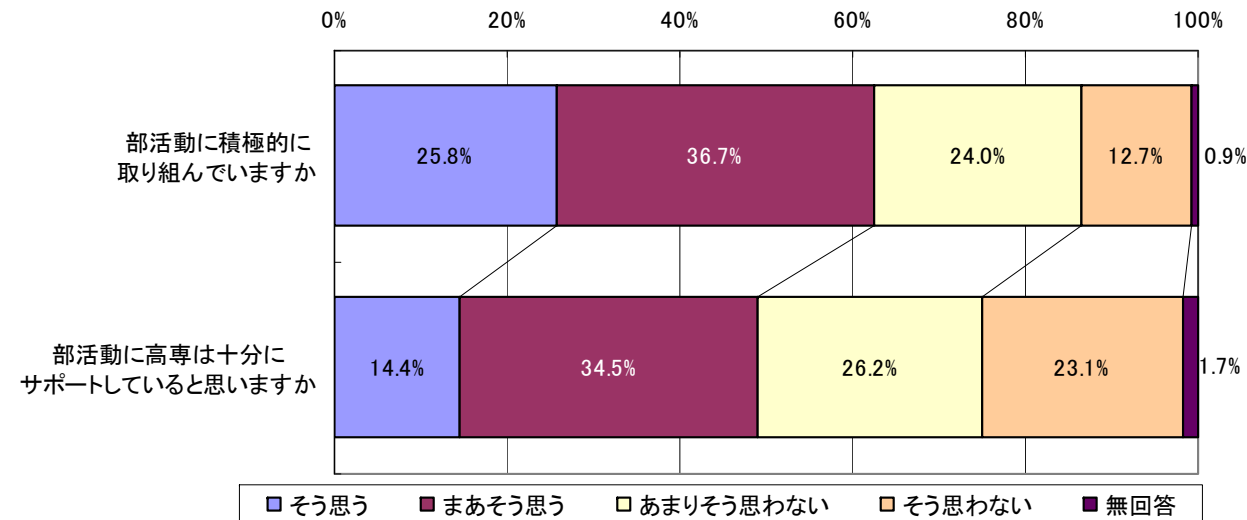
■部活動の現状に関して

- 「部活動の現状に関して」は1～3年生のみに聞き、「現状評価」については部活動参加者だけを集計の対象としている。
- 「現在、部活動に参加していますか」では71.8%が「はい」と答えていた。また、「部活動で活動しやすい環境がありますか」では44.8%が「はい」と答えており、52.7%は部活動の環境に問題があると考えているようであった。
- 部活動参加者に対して「部活動に積極的に取り組んでいますか」と聞いたところ、「そう思う」が25.8%、「まあそう思う」が36.7%であり、合わせると62.5%が積極的に取り組んでいると答えていた。
- 次に「部活動に高専は十分にサポートしていると思いますか」では、「そう思う」が14.4%、「まあそう思う」が34.5%であり、合わせると48.9%が肯定的な意見であった。一方、否定的な意見は49.3%と半数を占めていた。

■部活動の現状に関して(1～3年生のみ)



■部活動参加者の現状評価(1～3年生、部活動参加者のみ)

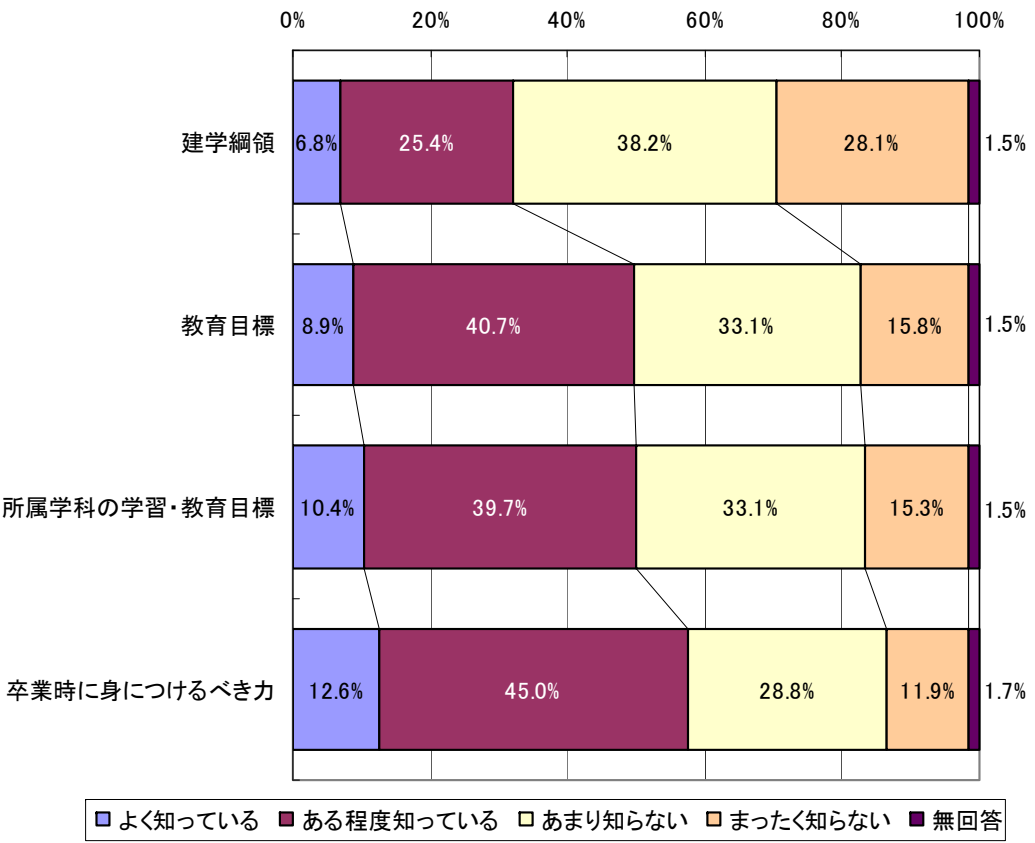


KTCの目的・目標に関して

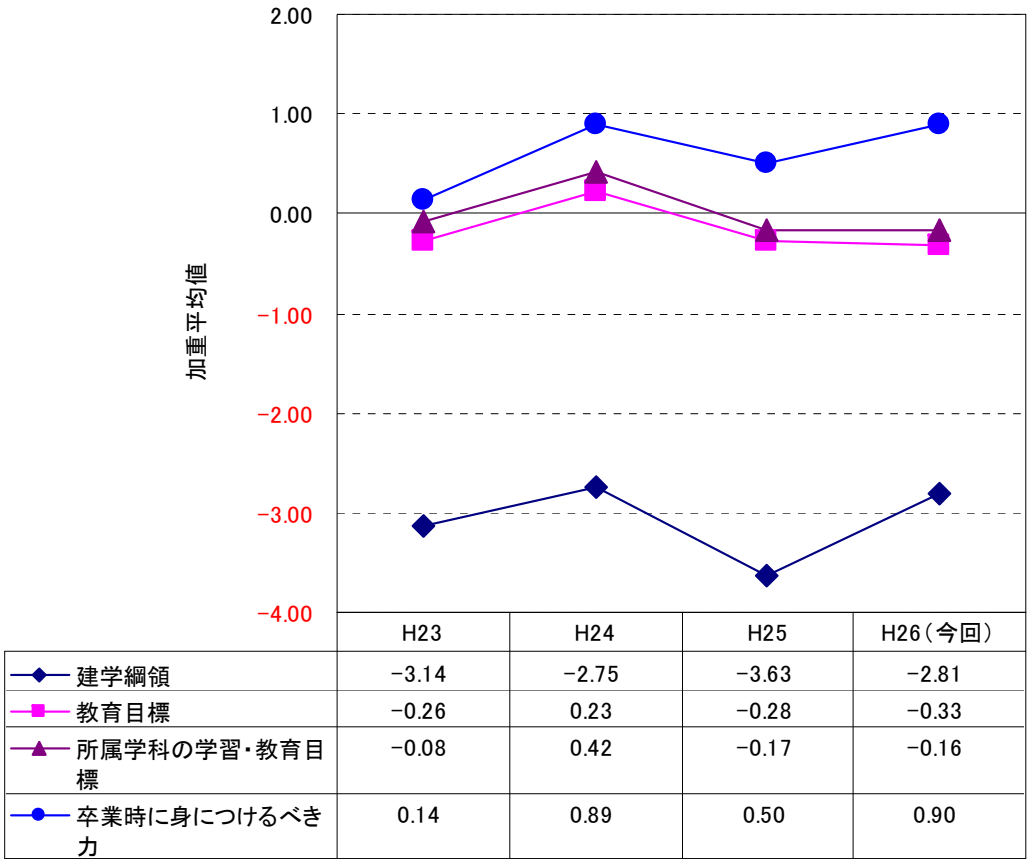
■KTCの目的・目標に対する意識

- 「建学綱領」の意識では、「よく知っている」が6.8%、「ある程度知っている」が25.4%であり、合わせると32.2%であった。
- 上記と同様に合計で見ると、「教育目標」は49.6%、「所属学科の学習・教育目標」は50.1%、「卒業時に身につけるべき力」は57.6%が知っていると答えており、いずれも半数前後の認知度であった。
- 年度別比較を見ると、「建学綱領」の意識はマイナススコアではあるものの、前回より高まっており、「卒業時に身につけるべき力」も前回を上回っていた。そして、「所属学科の学習・教育目標」はほぼ横這い、「教育目標」は前回を下回る結果となっていた。

■KTCの目的・目標に対する意識(在学生のみ)



■KTCの目的・目標に対する意識 年度別比較

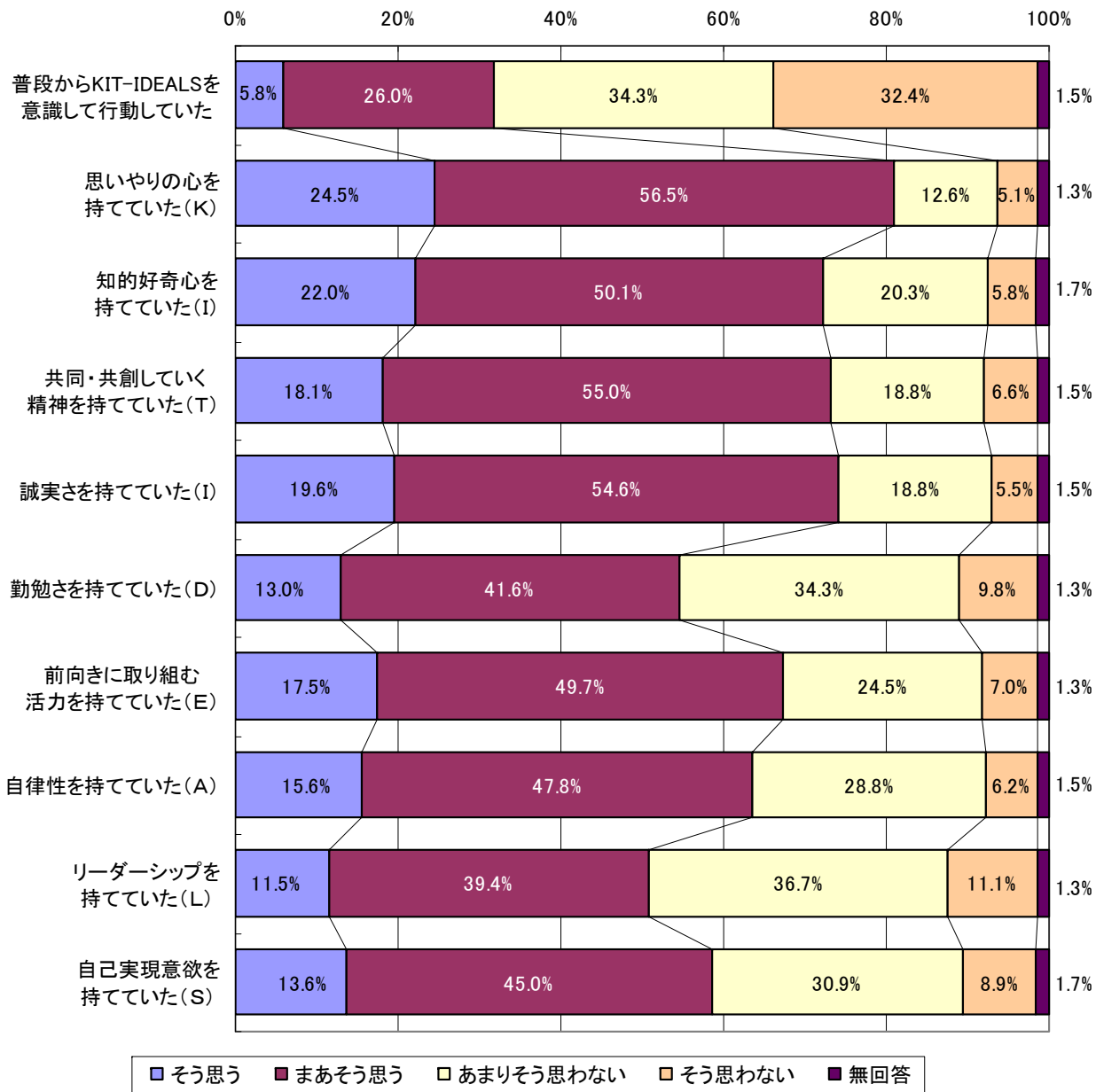


KIT-IDEALSに関して

■KIT-IDEALSに関して

- 「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」では、「そう思う」が5.8%、「まあそう思う」が26.0%であり、合わせると肯定的な意見は31.8%であった。
- KIT-IDEALSの9項目で肯定的な意見の合計が最も多かったのは「思いやりの心を持っていた(K)」で、81.0%が肯定的な意見となっていた。
- 肯定的な意見で比較すると、上記に次いで「誠実さを持っていた(I)」が74.2%、「共同・共創していく精神を持っていた(T)」が73.1%、「知的な好奇心を持っていた(I)」が72.1%となっており、ここまでの4項目では肯定的な意見が7割を超えていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「リーダーシップを持っていた(L)」の50.9%であり、「勤勉さを持っていた(D)」が54.6%、「自己実現意欲を持っていた(S)」が58.6%で続いており、この3項目では肯定的な意見が6割に満たなかった。

■KIT-IDEALSに関して(在学生のみ)

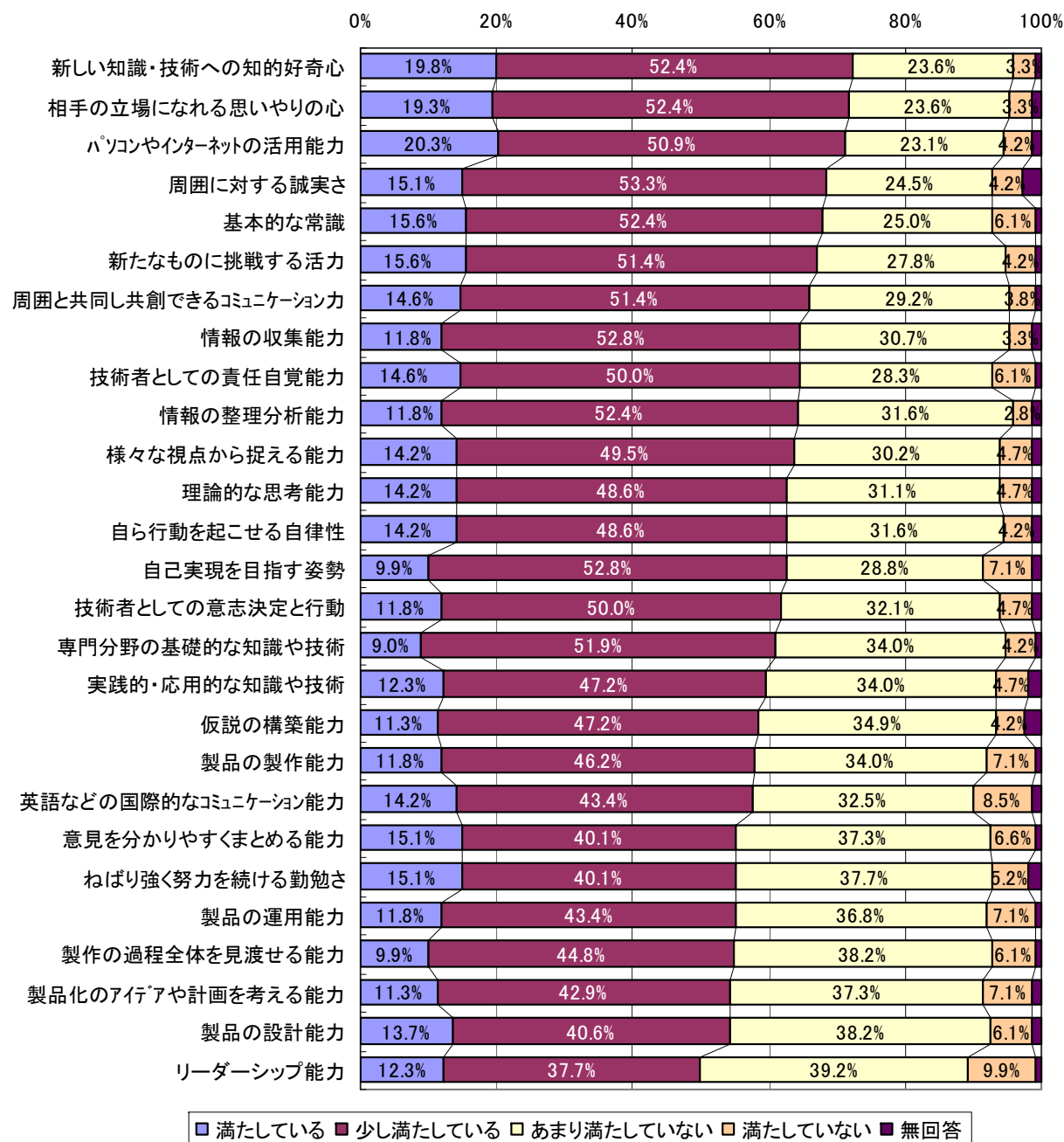


学生の能力に関して

■自分自身の能力の評価

- 「学生が考える現段階の自分自身の能力」に関しては、「4年生」と「5年生」のみに聞いている。
- グラフは肯定的な意見の合計でソートしているが、評価が一番高かったのは「新しい知識・技術への知的好奇心」で、肯定的な意見は72.2%であった。
- 次いで「相手の立場になれる思いやりの心」で71.7%、「パソコンやインターネットの活用能力」で71.2%、「周囲に対する誠実さ」で68.4%、「基本的な常識」で68.0%が肯定的な意見であり、これらが学生が自信を持っている能力であると言える。
- 一方、学生が最も自信を持てていなかったのは「リーダーシップ能力」であり、肯定的な意見は50.0%とちょうど半数となっていた。そして、「製品の設計能力」が54.3%、「製品化のアイデアや計画を考える能力」が54.2%で続いていた。

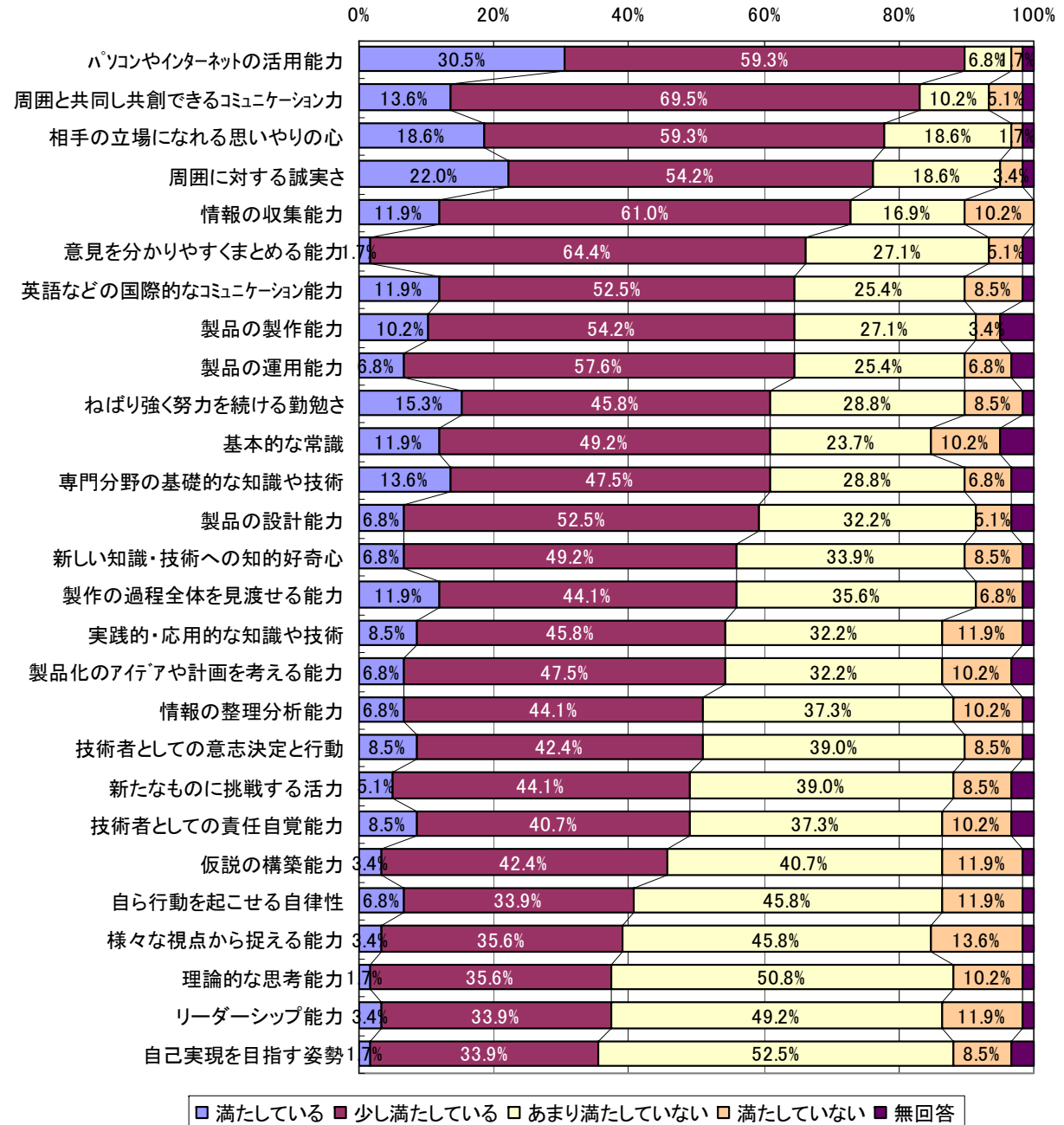
■学生が考える現段階の自分自身の能力(4年生、5年生のみ)



■教職員による卒業生の能力の評価

- 教職員に「卒業生の卒業時の能力の評価」を聞いたところ、最も評価が高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」で、89.8%が満たしていると評価しており、この能力が卒業生の強みであると考えているようであった。
- 次いで「周囲と共同し共創できるコミュニケーション力」で83.1%、「相手の立場になれる思いやりの心」で77.9%、「周囲に対する誠実さ」で76.2%、「情報収集能力」で72.9%が肯定的な意見であった。
- 一方、教職員が卒業生の最も弱い点と考えていた能力は「自己実現を目指す姿勢」で、肯定的な意見は35.6%であった。そして、「リーダーシップ能力」(37.3%)、「理論的な思考能力」(37.3%)が続いていた。

■教職員による金沢高専卒業生の能力評価(教職員のみ)



■自分自身(学生)の能力評価の属性別比較

- 学生の自分自身の能力の評価と教職員の卒業生の評価を比較したところ、「4年生」と「5年生」の評価は近かったものの、「教職員」は高い評価と低い評価がはっきりと分かれる結果となっていた。
- 「4年生」と「5年生」の差が最も大きかったのは「新しい知識・技術に興味を持つ知的好奇心」であり、「4年生」の方が自信を持っていた。
- 上記以外では「仮説の構築能力」「相手の立場になって考えられる思いやりの心」「技術者としての意志決定と行動」も「4年生」の方が高かった。一方、「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」「英語などの国際的なコミュニケーション能力」「製作の過程全体を見渡せる能力」「製品化のアイデアや計画を考える能力」「製品の設計能力」などは「5年生」の高さが目立っていた。
- 「教職員」の学生評価で目立っていたのは「パソコンやインターネットの活用能力」の高さで、他にも「周囲と共同し共創できるコミュニケーション力」「周囲に対する誠実さ」の高かった。一方、「教職員」の評価が低くて目立っていたものは多く、「理論的な思考能力」「様々な視点から捉える能力」「仮説の構築能力」「自ら行動を起こせる自律性」「リーダーシップ能力」「自己実現を目指す姿勢」などが低かった。

■KIT卒業生の能力 属性別の比較

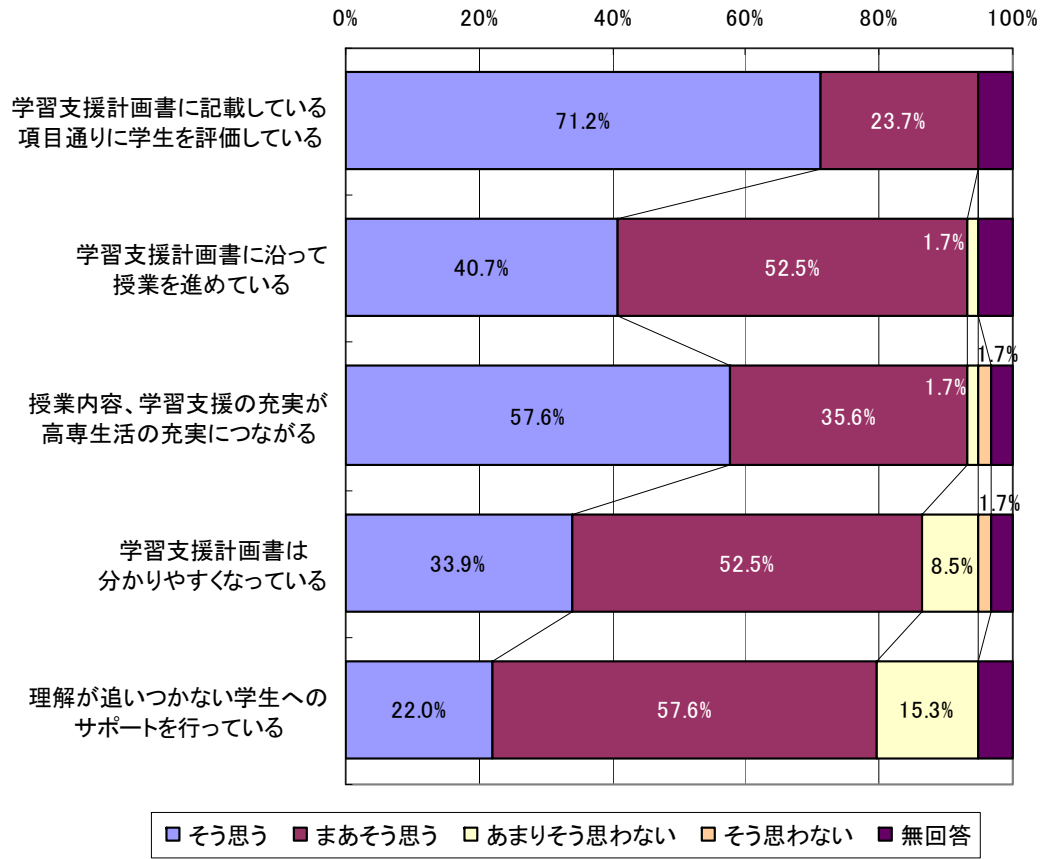


金沢高専の授業と教員業務に関して

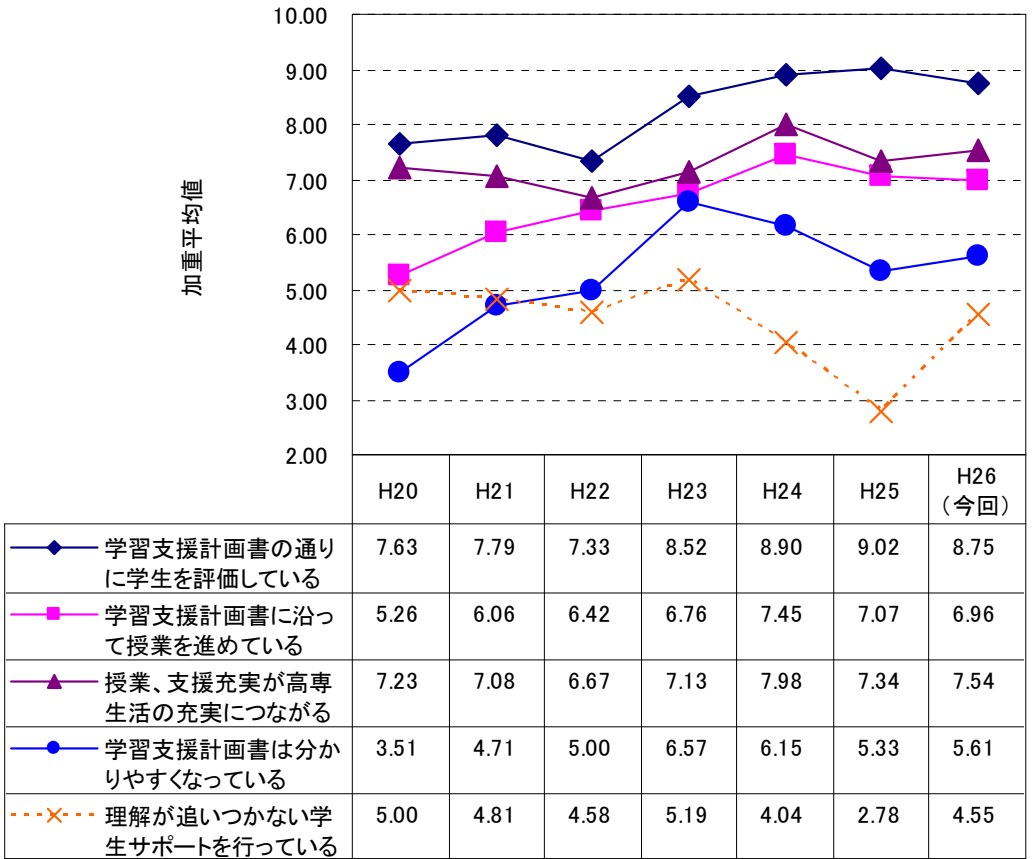
■教員の「授業および学習支援」の自己評価

- 教員の「授業および学習支援」の自己評価で肯定的な意見が最も多かったのは「学習支援計画書に記載している項目通りに学生を評価している」であり、94.9%が肯定的な意見で、「そう思う」という回答だけを見ても71.2%と非常に多かった。
- 上記に次いで「学習支援計画書に沿って授業を進めている」と「授業内容、学習支援の充実が高専生活の充実につながる」は肯定的な意見が両者共に93.2%であったが、「そう思う」だけを見ると「授業内容、学習支援の充実が高専生活の充実につながる」の方が高く、57.6%がそう思うと答えていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」であったが、肯定的な意見は79.6%を占めており、自己評価は低くはなかった。
- 年度別比較では「学習支援計画書の通りに学生を評価している」と「学習支援計画書に沿って授業を進めている」が前回よりわずかに低下していたが、その他の項目は向上し、特に「理解が追いつかない学生へのサポートを行っている」は前回より大幅に向上していた。

■教員の「授業および学習支援」の自己評価



■教員の「授業および学習支援」の自己評価 年度別比較

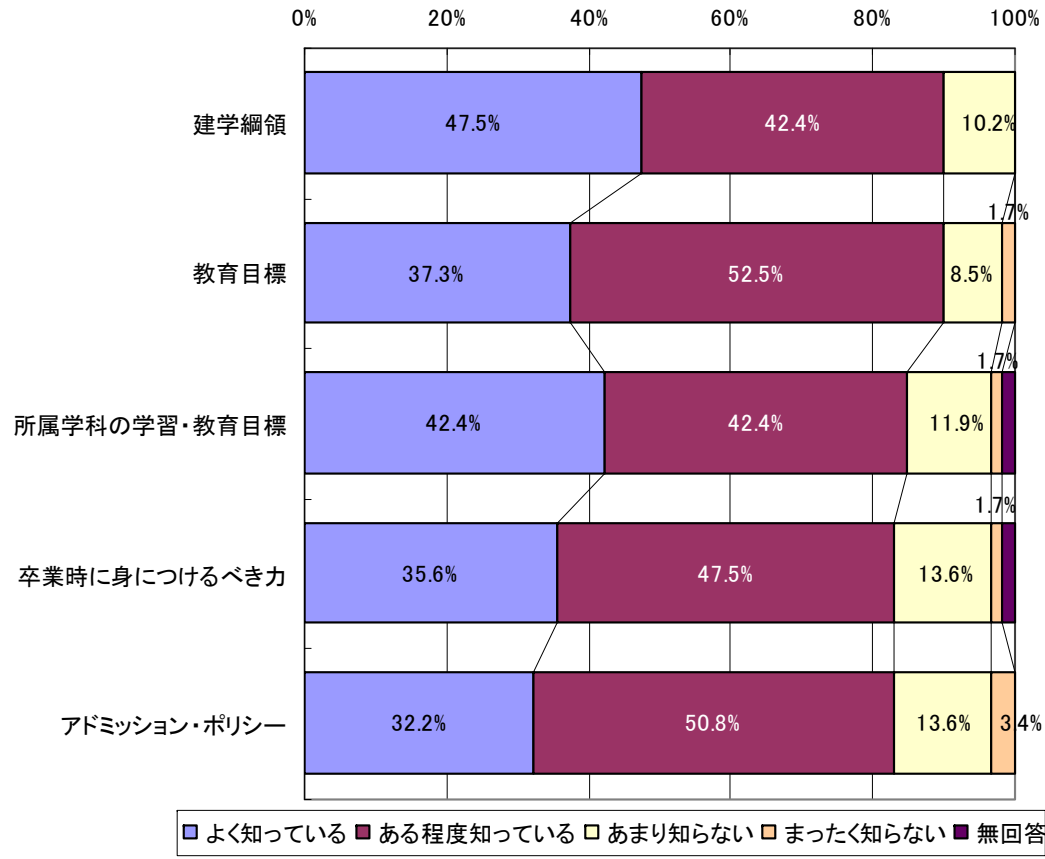


教職員の意識に関して

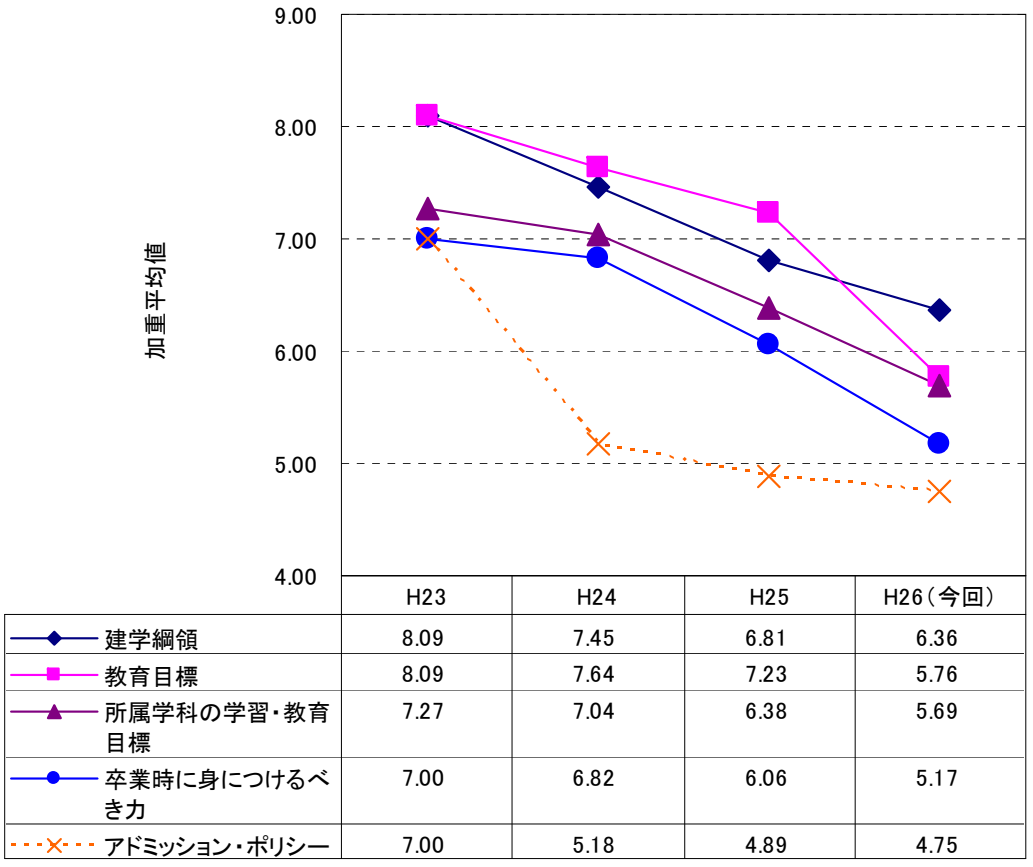
■教職員の「建学綱領」「教育目標」などに関する意識

- 「建学綱領」と「教育目標」では「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計はそれぞれ、89.9%、89.8%と、約9割であった。ただし、「よく知っている」だけを見ると「建学綱領」の方が10.2ポイント上回っており、教職員は「建学綱領」をよりよく理解している様子がうかがえた。
- 次いで、「所属学科の学習・教育目標」が84.8%、「卒業時に身につけるべき力」が83.1%、「アドミッション・ポリシー」が83.0%と続いており、いずれの認知度も非常に高かった。
- 経年変化を見ると、すべての項目で前回より低下しており、調査開始から継続的に低下を続けていた。今回は特に「教育目標」の低下の大きさが目立っていた。

■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識(教職員)



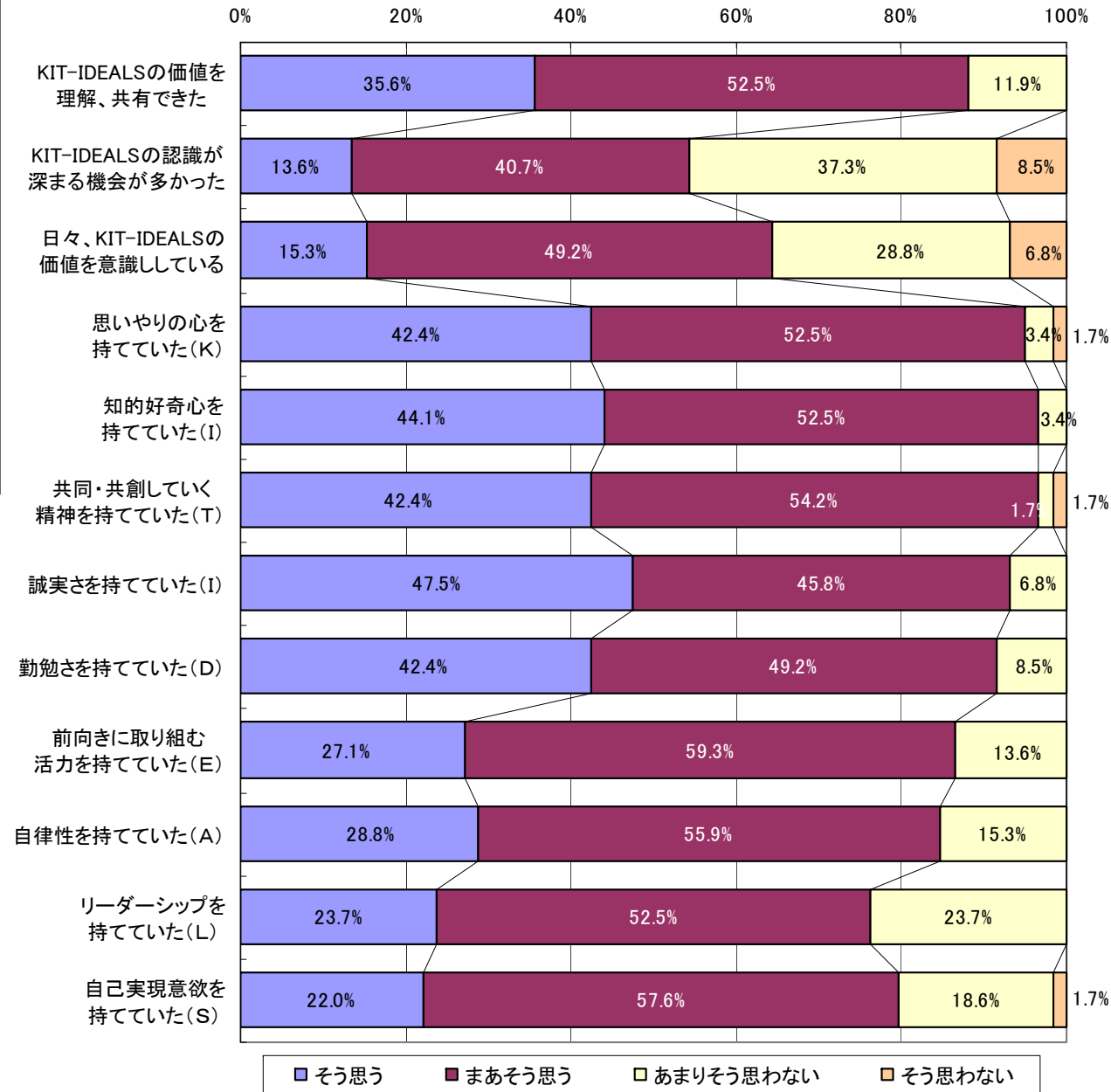
■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識 年度別比較



■教職員のKIT-IDEALSに関する意識

- 「KIT-IDEALS」に関して、まず、「KIT-IDEALSの価値を理解、共有できた」に関しては88.1%が肯定的な意見であった。しかし、「KIT-IDEALSの認識が深まる機会が多かった」では54.3%、「日々、KIT-IDEALSの価値を意識している」では64.5%であり、日常的に意識している割合はそれほど高くはなかった。
- 各項目の肯定的な意見を比較すると、「思いやりの心を持っていた(K)」では94.9%、「知的な好奇心を持っていた(I)」と「共同・共創していく精神を持っていた(T)」では96.6%となっており、この3項目に対する意識は非常に高かった。
- 一方、最も低かったのは「リーダーシップを持っていた(L)」の76.2%であり、「自己実現意欲を持っていた(S)」も79.6%と、やや低めであった。

■KIT-IDEALSに関して(教職員)



全体の課題のまとめ

<学生の満足度や目的・目標意識に関して>

- ◆高専に満足しているという学生は67.6%と過去最高であった。
- ◆仮説としては「満足度」と「目的・目標意識」の関連性が考えられるが、現段階では関連性がやや不明確である。
- ◆「電気電子の2年生」は満足度、タラスの雰囲気など、非常に良い状態にある学生群だと言える。

この満足度の高さは何に由来するのか？

電気電子2年生(現3年生)にヒントがあるのでは？

「満足度」と「目的・目標意識」の関連性はどうなっているのか？

「満足度」と「学校での充実度」の関連性はどうなっているのか？

<授業・学習サポートに関して>

- ◆授業の満足度は全科目で前回は上回っており「高専の満足度」の高さとの連動がうかがえた。
- ◆事前説明や理解不足の学生のサポートなどが「2年生」や「電気電子」などの満足度の向上につながっているのではないかとと思われる。
- ◆各種の指標において、これまで高めであった「グローバル」の低さが目立った。

穴水湾自然学苑での研修の改善が継続している。

今回の満足度の高さは何に由来するのか？しっかりと把握しておく必要がある。

「電気電子の2年生」(現3年生)の特徴はどこにあるのか？を把握しておく必要がある。

教職員の不満が増大している傾向が見られ、最優先で対応する必要がある。

<学校での過ごし方に関して>

- ◆学校での過ごし方に関してはすべての項目で前回は上回り、充実している様子がうかがえた。
- ◆「資格取得」「勉強への積極的な取り組み」などが低く、学生の自発的な行動が足りない面が見られた。高専の特徴である「英語でのコミュニケーション」の能力が身につけていないという意見も気になる点と言える。
- ◆部活動の参加率がこれまでで最も低くなっており、学生、教職員共に「課外活動・部活動の環境」には大きな不満が見られた。

教職員の不満の把握と状況改善の優先順位が高いと思われる。

<その他の環境に関して>

- ◆「就職・進学支援」に関しては、「サポートに対する満足度」は前回は上回り、「決定した内容に対する満足度」は継続して低下しており、両者の関係性についても把握する必要がある。
- ◆「就職・進学支援」に関して、「グローバル」が感じている不満の把握も進めていく必要があると思われる。
- ◆学生は「卒業時に身につける力」を理解していない割合が高かったが、卒業に向けての目標設定としては重要なものであるため、もう少し学生に意識させる方が良いのではないかとと思われる。

<教職員の意見に関して>

- ◆満足している教職員は56.0%でこれまでで最も低く、やりがいや充実を感じている割合は67.8%であった。
- ◆教職員の不満は学内情報の共有や伝達、学内の連携、改善提案や不満を聞く仕組みなどにありそうであった。

平成26年度

KTC総合アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成27年6月25日
- 発行者 金沢工業高等専門学校
- 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
- 編集 金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています